

2022 年度文部科学省

地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進

重度障害者の学習支援の展開と

地域と指定管理業者による

障害者の生涯学習の場づくりの研究事業

成果報告書

一般社団法人みんなの大学校



みんなの大学校

Minnano College of Liberalarts

-学び、で君が花開く-

目次

はじめに

1 全体像と各項目

- 1-1 重度障害者向けのオンラインの音楽プログラム
- 1-2 重度障がい者が企画する学びのプログラムの実践
- 1-3 オンラインでの学びの場づくりの展開
- 1-4 社会教育施設におけるインクルーシブな学びの場づくり研究と展開
- 1-5 事業の実施経過

2 重度障がい者向けのオンラインの音楽プログラム

- 2-1 背景と経緯
- 2-2 参加者
- 2-3 プログラム内容
- 2-4 アンケート集計
- 2-5 事業1の総括

3 重度障がい者が企画する学びのプログラムの実践

- 3-1 経緯
- 3-2 内容
 - 3-2-1 企画委員会
 - 3-2-2 第1回オープンキャンパス
 - 3-2-3 第2回オープンキャンパス
 - 3-2-4 第3回オープンキャンパス：みんなの思いを「うた」にしようコンサート
- 3-3 アンケート集計
- 3-4 事業2の総括

4 オンラインでの学びの場づくりの展開

- 4-1 概要
- 4-2 内容
- 4-3 アンケート集計
- 4-4 事業3の総括

5 社会教育施設におけるインクルーシブな学びの場づくり研究と展開

- 5-1 概観
- 5-2 内容：本年度の取組
- 5-3 ガイドライン素案
- 5-4 ヒアリング
- 5-5 事業4の総括

6 連携協議会

- 6-1 連携協議会の構成員と実施経過

- 6-2 具体的な研究内容
- 6-3 効果的な実施体制・連携体制
- 7 コーディネーターの活動やボランティアの育成・活用等の方策
 - 7-1 コーディネーターの配置
 - 7-2 実施経過
 - 7-3 具体的な内容
- 8 実践研究の成果等の普及
 - 8-1 実施経過
 - 8-2 具体的な内容
 - 8-3 各事業における普及
- 9 実施により得られた成果・効果
- 10 事業の実施により終了後（中長期的）に得た成果／アウトカム目標
おわりに

はじめに-全体像について

本報告書は2022年度文部科学省「地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進」事業として、一般社団法人みんなの大学校が企画提案をしました「重度障害者の学習支援の展開と地域と指定管理業者による障害者の生涯学習の場づくりの研究事業」の実施内容をまとめたものです。

本事業はみんなの大学校が東京都・国分寺市教育委員会の推薦を受けて文部科学省から採択され実施したもので、国分寺市教育委員会や関係機関、当事者との連携や事業内で構成した連携協議会の検討と協議をもとに、みんなの大学校の引地達也学長がコーディネーターとして推進してまいりました。

文科省による障がい者の生涯学習に関する委託研究は2018年度から始まり、みんなの大学校は、設立前の初年度から3か年は一般財団法人福祉教育支援協会として、昨年度からはみんなの大学校として、委託研究が採択され、地域で学びを推進するために障がいへの理解や地域社会での場の創出やプログラム開発、コロナ禍を受けての制限の中にあつての活動等、状況に応じながら最大限の成果を出すべくこの分野の探究を進め、結果的に多くの関係者や当事者と関わり合い、障がい者の学びの世界を広げる役割を模索してまいりました。

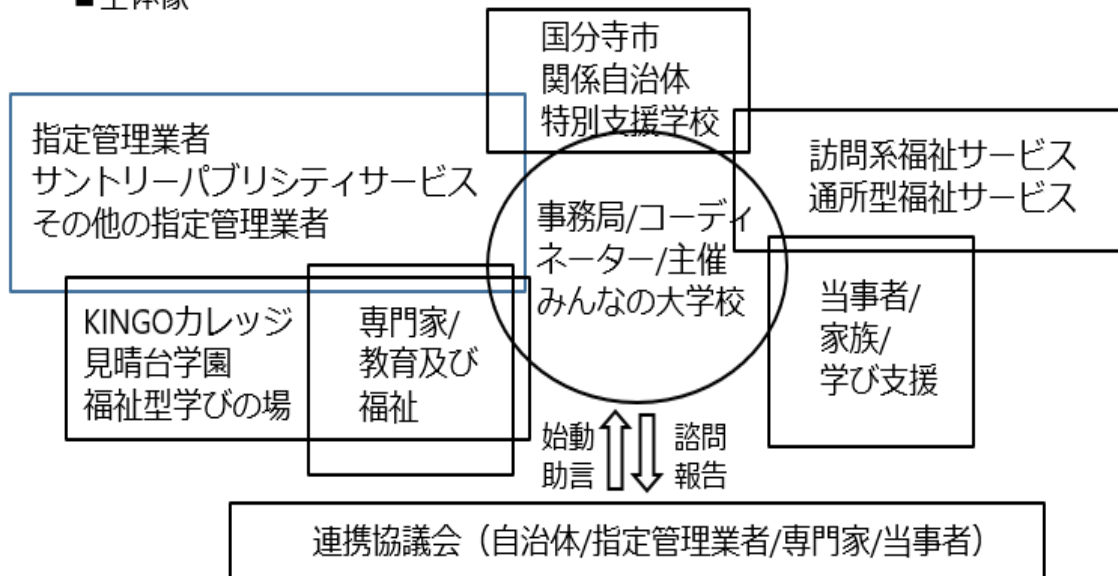
これまでの取組は先駆的と自負しながら、そこで得た成果を基礎として、2022年度は「重度障がい者を中心に音楽の学びで全国的につながる」「重度障がい者が自ら企画する」「オンラインの学びの交流を発展させる」「指定管理業者との研究で社会教育施設の場づくりを推進する」に焦点を当てて計画し実行いたしました。

これらはどれも新しい学びの切り口であり、多くの発見からさらに学びの可能性は高

まったと考えております。本年度の事業を報告書として提示いたしますので、詳細を含め確認していただき、また新たな学びを共に作っていただければと考えております。

1 全体像と各項目

■全体像



本年度の事業は2018年度～2020年度を一般財団法人福祉教育支援協会、2021年度は同協会から独立して運営することになった一般社団法人みんなの大学校として本事業の委託研究事業を前提として、4年間の蓄積と課題の抽出から継続する事業と新しい取組み、そして新しい領域を取り入れて実践することし企画実行した。

事業内容は以下の4つであり、各地にいる重度障がい者がウェブで介して同じ講義を行い、学び交流することや、重度障がい者が自ら企画を立てオープンキャンパスを実施することは新しい取組みとなり、当事者が「主体的」に学びを追究する内容となった。またオンラインで遠隔を結ぶ講義はみんなの大学校がこれまで蓄積してきた障害者向けの「情報リテラシーの向上」も目的とし、前年度から参加者や地域も増えることになった。

さらにこれまで各地の公民館をはじめとする社会教育施設で行政や教育委員会とともに展開してきた障がい者の学びを民間業者にも「場づくり」を知ってもらうために、全国の生涯学習施設を指定管理する民間業者と連携して研究会とオープンキャンパスの実践で、民間業者へのノウハウの浸透を目指した。

本事業の趣旨の1つは「市区町村が障害者の生涯学習支援に取り組むきっかけづくりを目的として、民間団体等と組織的に連携する」であり、これまでの委託研究で得た自治体や関係機関・団体との関係性を利用し、以下の事業への参加の呼びかけを積極的に行い、特に指定管理企業のサントリーパブリシティサービス株式会社との連携事業においては、指定管理する施設、当該自治体、当地の関係団体をつなぎ今後の実践にむけて

共に考え、「場づくり」に向けたガイドラインづくりに向けて有意義な研究となった。

本事業の全体像は上記の図の通りであり、コーディネーター及び連携・協力団体は以下である。

事務局：一般社団法人みんなの大学校（東京都国分寺市）

コーディネーター：みんなの大学校学長、引地達也

連携協議会：委員（サントリーパブリシティサービス株式会社、指定管理業者団体、関係自治体教育部門、関係自治体福祉部門、専門家、当事者、関係 NPO で構成）

連携団体：

訪問看護ケアステーションほたる（東京都杉並区）

社会福祉法人三育ライフ（生活介護事業所シャローム上井草さくら＝東京都杉並区）

港区立障害者支援ホーム南麻布（東京都港区）

サントリーパブリシティサービス株式会社（東京都江東区）

NPO 法人見晴台学園大学（名古屋市）

福祉事業型専攻科 KINGO カレッジ（新潟市）

一般財団法人発達支援研究所（東京都）

就労移行支援事業所ライトハウス大宮、就労移行支援事業所ライトハウス春日部（埼玉県）

就労継続支援 B 型事業所みんなの大学校大田校（東京都大田区）

関係する自治体：

東京都国分寺市、東京都杉並区、長野県松本市、滋賀県草津市、SPS 社が指定管理する施設の自治体（神奈川県大和市、大阪市、山梨県、愛知県岡崎市＝間接的）

事業内容

- 1 重度障害者向けのオンラインの音楽プログラム
- 2 重度障害者が企画する学びのプログラムの実践
- 3 オンラインでの学びの場づくりの展開
- 4 社会教育施設におけるインクルーシブな学びの場づくり研究と展開

※以下略して「事業1」「事業2」「事業3」「事業4」と記載する。

1-1 重度障害者向けのオンラインの音楽プログラム

オンラインを通じて週1度の音楽講義を様々なミュージシャン・音楽家に登壇いただき施設や自宅、病院にいる重度障害者向けに「おんがくでつながろう」を展開した。

場所：国分寺市のみんなの大学校や出演ミュージシャンの居場所から各地の自宅、通所施設、療養施設に提供（後半は事業4と連動）

時間：前期 4月—7月 15回/後期 10月—1月 15回/毎週火曜日 11時～11時50分

参加当事者：重度障害者（東京都杉並区の男性、埼玉県川越市の男性、新潟市の女性、東京都杉並区の生活介護等多機能の通所施設＝10名程度、東京都港区の生活介護等の多機能の通所施設＝20名程度、埼玉県蓮田市の病院等）

講師：ピアノコーラスグループ「サーム」の濱野崇（ヴォーカル）、笹木健吾（ピアノ）、歌手・奈月れい、津軽三味線・沢田慶仁、ちんどん楽団ポズック、声楽講師・中村剛志、シンガーソングライター・瀬戸山智之助、シンガーソングライター・慈光

ファシリテーター：引地達也みんなの大学校学長

1-2 重度障がい者が企画する学びのプログラムの実践

重度障がい者が主体的に企画委員になって学びの場をつくるプログラムづくりから始め、東京都杉並区の2名の男性と埼玉県川越市の男性の3名の当事者と家族・介護者らとともに協議し、学習のテーマは「うたをつくろう」に決定した。オープンキャンパスを通じて歌と詩について学び、参加者には歌詞を提出してもらい、作曲家のサポートで歌曲化し、第三回のオープンキャンパスではコンサートの形で披露した。

場所：西荻地域区民センター（東京都杉並区）

実施時期	内容	場所
6月11日	企画委員会：講義プログラムの内容を決定しオープンキャンパスの実施に向けて準備 参加者10名	西荻地域区民センター（東京都杉並区）及びズームによるオンライン
8月27日	オープンキャンパス第1回開催 「うたとことばを学ぶ」 参加者15名	西荻地域区民センター（東京都杉並区）及びズームによるオンライン
10月8日	オープンキャンパス第2回実施 「歌のことばを考える」 参加者15名	西荻地域区民センター（東京都杉並区）及びズームによるオンライン
2023年1月22日	オープンキャンパス第3回実施 「みんなのおもいを『うた』にしようコンサート」 来場者30名 視聴者：オンタイム50名 アーカイブ視聴：300名以上	西荻地域区民センターホール（東京都杉並区）及びツイキャスによるオンライン配信
2023年2月	個別に企画委員と協議	各企画委員と今年度の振り返りと来年度に向けての検討

参加当事者：企画委員（東京都杉並区の男性2人、埼玉県川越市の男性）

講師：引地達也、作曲家・森藤晶司

コンサート出演：ピアノコーラスグループ「サーム」の濱野崇（ヴォーカル）、笹木健吾（ピアノ）、歌手・奈月れい、シンガーソングライター・慈光

1-3 オンラインでの学びの場づくりの展開

オンラインを通じて東京、埼玉、新潟、愛知、山梨を中心にした遠隔地を結び、週1度のメディアコミュニケーションに関する講座を福祉サービスや障害者全般に行うことで受講者や支援者、関係者に「学び」の楽しさを知ってもらい、支援者にはノウハウを提供する。

場所：国分寺市本拠にさいたま市大宮区、埼玉県春日部市、名古屋市、新潟市、山梨県笛吹市を中心に全国に展開

時間：前期 4月—7月 15回/後期 10月—1月 15回/毎週木曜日 11時～11時50分

対象者：各種福祉サービスに通所する障がい者及び自宅や療養施設にいる方々。障害種別は精神障害、知的障害、発達障害が中心

参加機関：福祉事業型、KINGO カレッジ（新潟市）、NPO 法人見晴台学園大学（名古屋市）、福祉事業型ユニバやまなし（山梨県笛吹市）、就労移行支援事業所ライトハウス大宮（さいたま市）、就労移行支援事業所ライトハウス春日部（埼玉県春日部市）、みんなの大学校に参加する学生

参加者：1講義につき50名程度、延べ約1500名

1-4 社会教育施設におけるインクルーシブな学びの場づくり研究と展開

インクルージョン&ダイバーシティ社会に向けて「誰も取り残さない」学びの場づくりに向けて公共施設を指定管理する民間企業が関係機関や当事者との連携の手法を学び、ノウハウを研究した。本年度は全国各地の社会教育施設での展開に向けての第一歩として全国50の公共施設の管理運営を行うサントリーパブリシティサービス株式会社とともに「障がい者の生涯学習に向けての場づくり」に関する研究を3回にわたって行い、同時に神奈川県大和市、山梨市、大阪市、岡崎市の各施設で現状のヒアリングを行い、現場の声を踏まえた上での場づくりの基本となるガイドラインの素案を作成した。

場所：サントリーパブリシティサービス株式会社本社（東京都江東区）及び指定管理の社会教育施設

対象者：サントリーパブリシティサービス株式会社（以下SPS）の担当者、各地の社会教育施設を運営するスタッフ

内容：具体的に以下の内容で研究・実践した。大阪、愛知、山梨、神奈川では現地で施設運営担当者からヒアリング等を通じて、具体的な場づくりについて調査研究した。

・場づくりに向けた基本として障がいとは何か、障がいと社会についての深い理解を養

う

- ・障がい者の「学び」に関する見識を高める
- ・当事者との関わりの中で学びの場づくりの実態を知る
- ・場づくりを実践することで地域・当事者・行政との連携を確実にする
- ・連携を地域モデルとして全国に波及させる

項目	内容	場所
研究会（3回） 8月2日 12月6日 2月14日	各施設が障がい者の生涯学習の場として機能するために現状を共有し、各地域の特性に応じた場づくりを考える上での基本を整理し、行動に向けた「ガイドライン」作りに着手した。	SPS 本社・みんなの大学校中心にオンライン
オープンキャンパス（開催予定）	当初は本研究会の枠組みで「事例研究」として自らがオープンキャンパスを実施してその課題を抽出する予定であったが、日程の調整が難しく、オープンキャンパスは事業2で行った重度障がい者が企画する枠組みで実施したオープンキャンパスと連動して「学び合う」企画を研究した。	
各施設とのヒアリング及び対話	サントリーパブリシティサービス社が指定管理者として運営する施設のうち以下の大阪市、神奈川県大和市、愛知県岡崎市、山梨県甲府市の4施設をモデルとして現地でのヒアリングや現状の確認、今後の課題などを抽出した。	大阪、山梨、愛知、神奈川
ガイドライン作成	上記のプロセスからガイドラインの作成の素案を作成した。	みんなの大学校・SPS社中心に

1-5 事業の実施経過

4月	<p>内部折衝</p> <p>重度障害者向けオンライン音楽プログラム（事業1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スケジュール/講師/参加者に関する協議開始 <p>重度障害者が企画する学びのプログラムの実践（事業2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画委員のメンバー・介助者との協議開始 <p>オンラインでの学びの場づくりの展開（事業3）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加施設等とのプログラム内容に関する協議と実践 <p>インクルーシブな学びの場づくり研究と展開（事業4）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究会の内容と方向性、抽出する施設等の協議開始

5月	<p>事業開始</p> <p>重度障害者向けオンライン音楽プログラムの講義開始（事業1）</p> <p>5月10日、17日、24日、31日</p> <p>オンラインでの学びの場づくり展開の講義「メディア論」開始（事業3）</p> <p>5月12日、19日、26日</p>
6月	<p>第1回連携協議会（29日）</p> <p>重度障害者が企画する学びのプログラムの実践の企画委員会（事業2）11日</p> <p>重度障害者向けオンライン音楽プログラム（事業1）</p> <p>6月7日、14日、21日、28日</p> <p>オンラインでの学びの場づくり展開の講義「メディア論」（事業3）</p> <p>6月2日、9日、16日、23日、30日</p>
7月	<p>重度障害者向けオンライン音楽プログラム（事業1）</p> <p>7月5日、12日、19日、26日</p> <p>オンラインでの学びの場づくり展開の講義「メディア論」（事業3）</p> <p>7月7日、14日、21日、28日</p>
8月	<p>第1回インクルーシブな学びの場づくり研究会（事業4）8月2日</p> <p>第1回重度障害者の学習実践オープンキャンパス・重度障害者が企画する学びのプログラムの実践（事業2）8月27日</p>
9月	<p>インクルーシブな学びの場づくり研究会に関する協議（事業4）9月21日</p>
10月	<p>国分寺市くぬぎ学級との協議（関連する活動）10月5日</p> <p>第2回重度障害者の学習実践オープンキャンパス・重度障害者が企画する学びのプログラムの実践（事業2）10月8日</p> <p>重度障害者向けオンライン音楽プログラム（事業1）</p> <p>10月4日、11日、18日、25日</p> <p>オンラインでの学びの場づくりの展開の講義「メディア論」（事業3）</p> <p>10月6日、13日、20日、27日</p> <p>ユニバやまなしに訪問しオフライン交流（10月19日）</p> <p>見晴台学園大学に訪問しオフライン交流（10月31日）</p> <p>インクルーシブな学びの場づくり研究会に関する施設ヒアリング（事業4）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大和文化芸術ホール（10月11日） ・山梨県立美術館（10月19日） ・岡崎市シビックセンター（10月31日）
11月	<p>重度障害者向けオンライン音楽プログラム（事業1）</p> <p>11月1日、8日、15日、22日、29日</p> <p>オンラインでの学びの場づくりの展開の講義「メディア論」（事業3）</p>

	<p>11月10日、17日、24日 インクルーシブな学びの場づくり研究会に関する施設ヒアリング(事業4) ・大阪市公会堂(11月10日) 超福祉展のシンポジウムのパネリスト参加(関連する事業)11月5日</p>
12月	<p>第2回連携協議会(16日) 重度障害者向けオンライン音楽プログラム(事業1) 12月6日、13日、20日 オンラインでの学びの場づくりの展開の講義「メディア論」(事業3) 12月1日、8日、15日、22日 第2回インクルーシブな学びの場づくり研究会(事業4)12月6日 国分寺市くぬぎ学級のクリスマス企画実践(関連する活動)12月4日 千葉県教育委員会主催の公民館担当者向け講演実施(関連する活動)12月8日</p>
1月	<p>第3回重度障害者の学習実践オープンキャンパス・重度障害者が企画する学びのプログラムの実践「みんなのおもいを『うた』にしようコンサート」(事業2)1月22日 重度障害者向けオンライン音楽プログラム(事業1) 1月10日、17日、24日 オンラインでの学びの場づくりの展開の講義「メディア論」(事業3) 1月12日、19日、26日 インクルーシブな学びの場づくり研究会に関する協議(事業4)1月26日</p>
2月	<p>オンラインでの学びの場づくりの展開の講義「メディア論」(事業3) 2月2日 KINGO カレッジに訪問しオフライン交流(2月16日) 重度障害者が企画する学びのプログラムの実践(事業2)新潟の参加者訪問し交流(2月16日) 第3回インクルーシブな学びの場づくり研究会(事業4)2月14日 重度障害者の学習実践の検討会(事業2)適宜 第3回連携協議会及び最終報告会(2月22日)</p>
3月	<p>最終報告書提出</p>

2 重度障害者向けのオンラインの音楽プログラム

2-1 背景と経緯

本プログラムを行うにあたっては、2018年度から文科省による本委託研究事業で実践(2018年度—2020年度は一般財団法人福祉教育支援協会、2021年度は一般社団法人みんなの大学校が受託)してきた2つの系統のプログラム開発「重度障がい者向けの学

び」「音楽プログラム」が基本となっている。

前者の重度障がい者向けの学びについては、コーディネーターが以下の経緯で調査研究から実践、ネットワーク化してきた。以下が各年度の実践内容である。

■ 重度障がい者に向けての学びに関する経緯

2018年度	重度障がい者への学びの調査研究として当事者・家族と面談、NPO 地域ケアサポート研究所とのディスカッションと検討
2019年度	地域ケアサポート研究所と協力し4名の学びを求める学生らに約30回の連続講義を個別に行い、講師や学生にその評価を行ってもらった。
2020年度	コロナ禍により学生は2名に限定し実践講座を約30回実施。各地の取組をネットワーク化するために「第1回医療的ケア児者の生涯学習を推進するフォーラム」を開催。みんなの大学校をはじめとする実践団体11団体を紹介するパンフレットを作成
2021年度	継続して学生2名に講座を実施するとともに、オンラインでの可能性を考慮し、オンラインを使っての大学との交流を実施。第2回医療的ケア児者の生涯学習を推進するフォーラム開催。オープンキャンパスにも重度障がいの学生が参加。音楽プログラムを楽しむ。

音楽プログラムは以下の経緯で実践研究を積み重ねてきた。

■ 音楽プログラムの実践の経緯

2018年度	埼玉県和光市を開催地とした「市民と障がい者が学び合うオープンキャンパス」でコミュニケーションの考え方を音と音域などでお話しながら、最終的には音楽を合奏することでインクルーシブな学びになることを確認した。出演：ピアノコーラスグループ、サーム
2019年度	前年度のプログラムを他地域で多様な障害特性の方々に向けて実践することとし、前年に引き続いての埼玉県和光市のほか、静岡県伊東市、長野県佐久市でもカリキュラムを行った。
2020年度	コロナ禍により集合型の音楽コミュニケーション講座の開催が難しい状況もあり、長野県松本市では集合型で行い、山梨県笛吹市はミュージシャン側が東京のスタジオから出演する形で行った。出演：サーム、強力翔
2021年度	東京都国分寺市でのオープンキャンパスで国分寺市での集合型に加え、兵庫県西宮市の会場をインターネットで結んでのハイブリット型で音楽講義を行った。オンラインで集合型がつながっていても合奏などは可能で十分に学べる内容になったことを確認した。

これら2つの系統の取組を1つに統合することでオープンキャンパス等がその場に「重度障害者が合わせる」という意識から、重度障害者が中心の場づくりをして学びの展開を考えられることを目指した。

主体的に重度障がい者の学びの場であると同時に、空間をこえて多くの方と交わり合いながら「学び」、自分の可能性を考えるきっかけにするためにも音楽プログラムは有効であるとの考えから、本事業ではウェブでつながれたこれまでのノウハウと音楽プログラムを実施し続けている経験を組み合わせて、双方向性の環境を意識した。

例えば対話型に進めていくにあたっては、講義中では質問ができない、発信のツールがない、スピードについていけない等の状況も考えられるため、講義後にゆっくり質問やコメントを書いてもらい、そのコメントをファシリテーターが整理し講師にも伝え、次週にフィードバックすることで、50分だけにとどまらないコミュニケーションにより、参加型・双方向性型の新しいスタイルも意識した。

2-2 参加者

音楽プログラムは対外的には誰もが参加しやすくするために「音楽でつながろう」とのタイトルで周知を行った。これは重度障がい者が「学べる」ことを広く知っていただくための機会として、オープンソース化させ全国的に参加の呼びかけを行った。昨年度から参加した学生が引き続き各自宅から参加したほかに、生活介護等の通所施設から設置された大画面を大人数で視聴した参加者や特別支援学校で進路の参考のための視聴もあり、1回の講義で50人-70人が視聴し、全30回の講義で延べの参加者は1500人程度となった。

定期での参加者

YKさん（男性）	自宅：埼玉県川越市	訪問看護サポート
YMさん（女性）	自宅：埼玉県川越市	訪問看護サポート
HKさん（女性）	自宅：新潟県新潟市	家族サポート
HAさん（男性）	自宅：埼玉県さいたま市	訪問看護サポート
港区立障害者支援ホーム 南麻布	利用者20-30名 東京都港区	支援スタッフサポート
自立訓練事業所ユニバや まなし	利用者10名程度 山梨県笛吹市	支援スタッフサポート
就労移行支援事業所ライ トハウス大宮	利用者10名程度 さいたま市	支援スタッフサポート
就労移行支援事業所ライ トハウス春日部	利用者7名程度 埼玉県春日部市	支援スタッフサポート
自立訓練事業所シャロー ムさくら上井草	通所者のうち10名程度 東京都杉並区	支援スタッフサポート
みんなの大学校学生	3-7名 東京都、埼玉県	自宅から参加

プログラムの内容は連続受講をしなくても、楽しみながら学べる内容になっており、お互いの施設がつながっていることを意識しながら、音楽の講義と音楽を実際に聞き、

意見を出し合い、最後は合奏する流れで講義を組み立てた。

受講するにあたっては、本人だけではウェブの接続等、困難なケースがほとんどであり、基本的に家族や支援者などの介助者が必要である。受講の際にはオンライン環境を確認しながら、必要な支援を実施した。

2-3 プログラム内容

講師として参加した音楽家はこれまでの本事業における「市民と障がい者が学び合う」行事において出演経験がある方や、ほかのイベントで障がい者と交流し演奏活動を支援の一環にしている方で、本事業の趣旨をよく理解し、「学ぶ」という視点で取り組めることを前提に選定した。

■講義報告：

前期 15 回

科目名（副題）	開講年次	単位	担当者名
音楽でつながろう I	半年	4	引地達也ほか
授業概要			
重度障がいの方がそれぞれの場所で「学び」として音楽を楽しみ、つながっていくプログラム。毎週、音楽家やミュージシャンが登場し、コミュニケーションが専門分野の引地のファシリテーションのもと、音楽を通じたコミュニケーションで各地をつないで講義を実施した。遠隔にしながら「一緒」に「同じ時間」に音楽を体感していき学びにつなげるのを狙いとした。			
授業目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットを使って映像と音声で結ばれるコミュニケーション方法を理解し正しく利用する ・インターネット上のコミュニケーションのルールやマナーを会得する ・音楽の中でも様々なジャンルがあり、その考え方、表現の仕方の違いがあることを考察する ・音楽を使ってインターネット上で「つながる」こと体感し、その体感を自分なりの方法で表現することを考える 			
授業方法			
インターネットによるテレビ会議システム「ズーム」を利用し、東京都のみんなの大学校の引地を中心に音楽家の方に登場してもらった。受講者はそれぞれの場所で、出来る範囲で音を合わせたり、声を出したり、楽器を演奏したりして、毎回音楽演奏に「加わる」ことを意識した。			
成績評価方法・基準			
出席 70%、授業への参加意欲 20%、発表 10%			
教科書・教材・参考文献 等			
毎回、パワーポイント提示で歌詞などを示し合唱した。			
質問への対応			
授業中にも可。授業中に難しい場合は手紙やメールで送付してもらい次週フィードバックすることにした。毎回感想を送ってくれる参加者もいた。			
授業経過			
項目	内容		

1	4・12	オリエンテーション	出演：サーム（ハマ/ケンゴ）、自己紹介、授業の進め方説明。音楽でつながる基本を確認。 テーマ「音楽はひとの心をつなげます」。合奏「ひまわりの約束」。4月のハッピーバースデー
2	4・19	歌でつながる1	出演：奈月れい/河野彰。自己紹介クイズ。テーマ「歌い方はいろいろ」。演歌や歌謡曲の歌唱や表現。合奏「元気を出して」。
3	4・26	ピアノと歌でたのしもう1	出演：サーム（ハマ/ケンゴ）。テーマ「季節の音」春夏秋冬とピアノで表現。歌唱は「わすれな草」。合奏は「卒業写真」。
4	5・10	ピアノと歌でたのしもう2	出演：サーム（ハマ/ケンゴ）。テーマ「感情の音」。ピアノの音で感じる、よろこび、いかり、かなしみ、たのしみ。合奏は「ひだまりの歌」。5月のハッピーバースデー。
5	5・17	歌でつながる2	出演：奈月れい/河野彰。テーマ「季節を感じる歌詞とギター」。ギターと歌で、春、初夏、梅雨を感じる。合奏は「いのちの歌」。
6	5・24	演奏は心をつなぐ1	出演：澤田慶仁。テーマ「津軽三味線を知ろう」。なにでできているの？どんな音がでくるの？どんな演奏ができるの？合奏「ソーラン節」。
7	5・31	演奏は心をつなぐ2	出演：中村つよし。
8	6・7	チンドヤのリズムで心ウキウキ	出演：ポズック。テーマ「みんなでたのしくかなでること」。和歌山で活動する障がい者の楽団と一緒に合奏。
9	6・14	歌とピアノでたのしもう1	出演：サーム（ハマ/ケンゴ）。テーマ「風景の歌 ココロの音」。北海道の風景等。合奏「笑顔予報」。6月のハッピーバースデー。
10	6・21	歌でつながる3	出演：奈月れい/河野彰。テーマ「ムード歌謡とは何か 西洋の音楽と歌い方」。ギター演奏「ワンダフル・トゥナイト」。合奏「東京チャチャチャケセラセラ」。
11	6・28	演奏は心をつなぐ3	出演：澤田慶仁。テーマ「津軽三味線を知ろうその2 青森のお祭りといえば みんなで民謡をやろう」。合奏「ねぶたとねぶた」「東京音頭」。
12	7・5	演奏は心をつなぐ4	出演：中村つよし。テーマ「声の出し方」。合奏、唱歌「夏の思い出」「海」「七夕様」。
13	7・12	歌とピアノでたのしもう2	出演：サーム（ハマ/ケンゴ）。テーマ「夏を感じる曲」。歌と演奏。合奏「Magic Days」。7月のハッピーバースデー。
14	7・19	演奏は心をつなぐ5	出演：澤田慶仁。テーマ「リクエスト 3回分のふくしゅう ソーラン節 ねぶたとねぶた 東京音頭」。合奏「上を向いて歩こう」。

15	7・26	講義のまとめ	講義：引地達也。前期の映像を振り返りながら復習し合奏。
----	------	--------	-----------------------------

後期

科目名（副題）	開講年次	単位	担当者名
音楽でつながろうⅡ	半年	4	引地達也ほか

授業概要

重度障がいの方がそれぞれの場所で「学び」として音楽を楽しみ、つながっていくプログラム。毎週、音楽家やミュージシャンが登場し、コミュニケーションが専門分野の引地のファシリテーションのもと、音楽を通じたコミュニケーションで各地とをつないで講義を行った。遠隔にしながら「一緒」に「同じ時間」に音楽を体感していき学びにつなげるのを狙いとする。前期で慣れた環境でさらに双方向性を目指して活発に交流した。

授業目標

- ・インターネットを使って映像と音声で結ばれるコミュニケーション方法を理解し正しく利用する
- ・インターネット上のコミュニケーションのルールやマナーを会得する
- ・音楽の中でも様々なジャンルがあり、その考え方、表現の仕方の違いがあることを考察する
- ・音楽を使ってインターネット上で「つながる」こと体感し、その体感を自分なりの方法で表現することを考える
- ・講師やファシリテーターに質問をするなど、対話に慣れていく

授業方法

インターネットによるテレビ会議システム「ズーム」を利用し、東京都のみんなの大学校の引地を中心に音楽家の方に登場してもらった。受講者はそれぞれの場所で、出来る範囲で音を合わせたり、声を出したり、楽器を演奏したりして、毎回音楽演奏に「加わる」ことを意識した。

成績評価方法・基準

出席 70%、授業への参加意欲 20%、発表 10%

教科書・教材・参考文献 等

毎回、パワーポイント提示で歌詞などを示し合唱した。

質問への対応

授業中にも可。授業中に難しい場合は手紙やメールで送付してもらい次週フィードバックした。

授業経過（授業日程に若干の変更）

項 目		内 容
1	10・4	後期オリエンテーション 出演：サーム（ハマ/ケンゴ）。テーマ「芸術の秋、読書の秋、スポーツの秋」。前期を振り返り後期の方針を説明。後期の課題合奏「Magic Days」「笑顔予報」。10月のハッピーバースデー。
2	10・11	歌でつながる1 出演：瀬戸山智之助。自己紹介クイズ。様々なジャンルを歌う。鬼滅の刃「炎」、「糸」など。合奏「STAND BY ME ドラえもん2」。
3	10・18	歌とギターの表現 出演：奈月れい/河野彰。テーマ「秋-歌の表現とジャズの響き」。ジャズ「枯葉」等。合奏「上を向いて歩こう」。

4	10・25	声を歌にする	出演：中村つよし。テーマ「呼吸と発声の練習」。実際に発声を意識して練習。ゾウの声や虫の声などで表現。合奏「虫の声」。
5	11・1	歌でつながる2	出演：慈光。テーマ「歌で気持ちを伝える」。ちから強いメッセージソング、しっとりとしたメッセージソング、愛を伝えるメッセージソング。合奏「糸」。
6	11・8	演奏は心をつなぐ1	出演：サーム（ハマ/ケンゴ）。テーマ「言葉を味わう」。「よければ一緒に」「見上げてごらん夜の星を」「さらば恋人よ」他。合奏「笑顔予報」。11月のハッピーバースデー。
7	11・15	歌とギターの表現2	出演：奈月れい/河野彰。テーマ「いのちをうたう」。「いのちの歌」「明日へ」。ギター「In my life」。歌で命を考える。
8	11・22	ミュージカル	出演：中村つよし。テーマ「ミュージカルを楽しむ」。「オズの魔法使い」から「虹の彼方へ」。歌曲「ジャンニ・スキッキ」。合奏「紅葉」。
9	11・29	歌でつながる3	出演：瀬戸山智之助。テーマ「ミュージカルを楽しむ 歌で応援する 季節を感じる」。「美女と野獣」から。「粉雪」「何度でも」。
10	12・6	演奏は心をつなぐ2	出演：サーム（ハマ/ケンゴ）。テーマ「歌で1年を振り返る」。「One and only」、合奏「笑顔予報」。12月のハッピーバースデー。
11	12・13	演奏は心をつなぐ3	出演：サーム（ハマ/ケンゴ）。テーマ「メリークリスマス！」。「クリスマスイブ」、ピアノ「戦場のメリークリスマス」。合奏「ジングルベル」。
12	12・20	歌でつながる4	出演：瀬戸山智之助。テーマ「クリスマスを楽しもう」。「チキンライス」「粉雪」。合奏「きよしこの夜」。
13	1・10	歌とギターの表現3	出演：奈月れい/河野彰。テーマ「今年やってみたいこと」。「負けないで」「明日へ」。ギター「LOVE」。合奏「翼をください」。
14	1・17	社会テーマと歌	出演：中村つよし。テーマ「震災を感じる」。「スカイランタンの唄」「いつも何度でも」「明日へ」。合奏「ふるさと」。
15	1・24	講義のまとめ	出演：サーム（ハマ/ケンゴ）。重度障がいの方々が作った「はっぴいそんぐ」。合奏課題の「Magic Days」「笑顔予報」。

■周知活動のチラシ

2022年度後期 インクルーシブな学びの場

「おんがくでつながろう」 公開講座のお知らせ（全15回）

だれもが、どこでも学べる、公開講座です。
重度障がいや知的障がい、精神障がいの方や
なかなか家から出られない人など、
お好きな場所で一緒に学び合しましょう。

無料です。
参加希望は
070-3166-1616
まで

開催期間：

2022年10月～2023年1月
（毎週火曜午前11時～11時50分）

全15回

講座内容：

毎週プロの音楽家とともに
音楽を通じての学びがあります

ファシリテーター：

引地達也みんなの大学校学長

講義はズームを使って
オンラインで行います。
参加者申し込まれた
方・施設にURLを
お知らせいたします。

お気軽にお問合せください。

明日の



日時	音楽家
10月4日	サーム
10月11日	瀬戸山智之助
10月18日	奈月れい/河野彰
10月25日	中村つよし
11月1日	慈光
11月8日	サーム
11月15日	奈月れい/河野彰
11月22日	中村つよし
11月29日	瀬戸山智之助
12月6日	サーム
12月13日	サーム
12月20日	瀬戸山智之助
1月10日	奈月れい/河野彰
1月17日	中村つよし
1月24日	サーム



本事業は2022年度文部科学省「障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」における障害者の生涯学習におけるウェブ利用展開と社会教育リソースの活用研究」の中で行われます。

主催：一般社団法人みんなの大学校
問い合わせ：070-3166-1616

MINDAI
MINNANO COLLEGE OF LIBERAL ARTS



みんなの大学校
-学び、て君が笑顔く-

■講義の内容例

前期第14回の講義 講師：津軽三味線歌手、澤田慶仁さん、案内：引地達也

前期講義で3回の講義を行った澤田さんの講義では前回までのリクエストにこたえる選曲と民謡を学び、一緒に歌くことで「一緒に」音楽を楽しむ講義となった。この日は青森のねふたとねふたに関する学びとソーラン節、東京音頭について学んだ後に全員で合奏した。最期の合唱は「上を向いて歩こう」であった。以下が提示したPPTであるが、重度障がい者に対応する内容として文字数を少なくし、絵や写真でわかりやすい内容を心掛けた。

ほかの講義についても概ね同じスタンスで資料提示を行った。詳細はアーカイブ参照。



おんがくのじかん
第14回

出演：歌手 澤田慶仁さん

案内：引地達也



引地達也
ひきち・たつや
みんなの大学校学長

澤田慶仁さん



今週の「学び」

- リクエスト
- 3回分のふくしゅう
- ソーラン節
- ねぶたとねぶた
- 東京音頭
- 最後にみんなで

ドラえもののうた

この木なんの木



ソーラン節

ヤーレンソーランソーラン
 ヤレン ソーランソーラン ハイハイ
 沖の鷗（かもめ）に
 潮どき問えばわたしや立つ鳥 波に聞け
 チョイ
 ヤサエンエンヤー---アンサの
 ドッコイシヨ
 ハードッコイシヨドッコイシヨ

ねぶた と ねぶた



青森ねぶた



弘前ねぶた



青森ねぶた
ラッセラー

弘前ねぶた
ヤーヤドー




東京音頭



東京音頭

ハア 踊り踊るなら
 チョイト 東京音頭 ヨイヨイ
 花の都の 花の都の真中で サテ
 ヤットナ ソレ ヨイヨイヨイ
 ヤットナ ソレ ヨイヨイヨイ

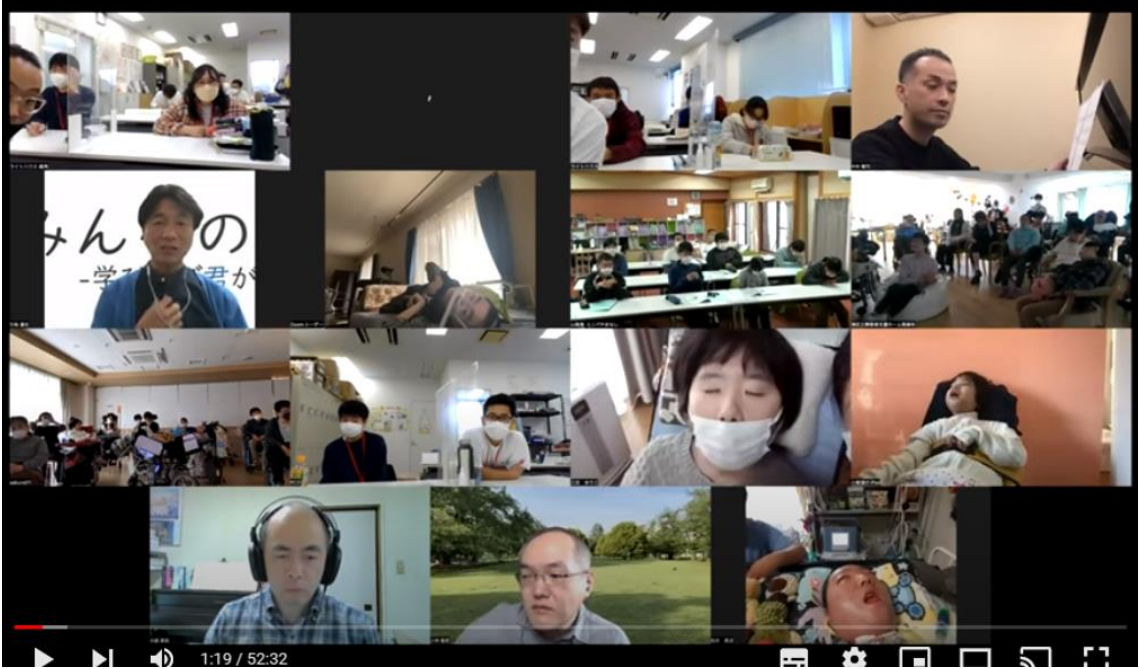



上を向いて歩こう

『上を向いて歩こう』

上を向いて歩こう
 涙がこぼれないように
 一人ぼっちの夜
 一人ぼっちの夜
 上を向いて歩こう
 にじんだ夏をかぞえて
 一人ぼっちの夜
 一人ぼっちの夜
 幸せは 雲の上に
 幸せは 雲の上に
 ★上を向いて歩こう
 涙がこぼれないように
 一人ぼっちの夜
 一人ぼっちの夜
 思い出す 秋の日
 一人ぼっちの夜
 悲しみは 星のかけに
 悲しみは 星のかけに
 ★くりかえし

■講義の様子



■講義の動画アーカイブ

音楽でつながる時間 再生リストと事務局が目視した参加人数

https://www.youtube.com/playlist?list=PLuH_R_H0zTaD7PNy5b9_UqZfGZ2HNF5tq

音楽でつながる時間 1 10/4 https://youtu.be/_PFPELGI4YQ 60 名

音楽でつながる時間 2 10/11 https://youtu.be/UZQwybtt_tA 50 名

音楽でつながる時間 3 10/18 <https://youtu.be/m9pfTlvQeKU> 47 名

音楽でつながる時間 4 10/25 <https://youtu.be/JdEY2QsvLs0> 55 名

音楽でつながる時間 5 11/1 https://youtu.be/Xs8wo_91iu4 21 名

音楽でつながる時間 6 11/8 <https://youtu.be/OYJ70XR3iH0> 59 名

音楽でつながる時間 7 11/15 <https://youtu.be/-SRAuslgkLY> 35 名

音楽でつながる時間 8 11/22 <https://youtu.be/a1OI7HaiZKA> 32 名

音楽でつながる時間 9 11/29 <https://youtu.be/QvKDK5aSsGw> 32 名

音楽でつながる時間 10 12/6 <https://youtu.be/-Zp-qE2RsTA> 41 名

音楽でつながる時間 11 12/13 <https://youtu.be/gmtuuR8o79E> 38 名

音楽でつながる時間 12 12/20 https://youtu.be/TD0p3c_3lxU 46 名

音楽でつながる時間 13 1/10 <https://youtu.be/qkdqB5JyZa8> 26 名

音楽でつながる時間 14 1/17 <https://youtu.be/sjpXOrxzLms> 35 名

音楽でつながる時間 15 1/24 <https://youtu.be/SdaTeOlc7qY> 35 名

2-4 アンケート集計

【受講者用】みんなの大学校「おんがくでつながろう」講義アンケート

1 「おんがくでつながろう」の講義は楽しかったですか

とても楽しかった まあ楽しかった ふつう あまり楽しくなかった 楽しくなかった

13

5

1

3

0

2 その理由を教えてください

- ・たくさんの大好きな歌をプロの歌手のみなさんと一緒に勉強することができたので。
- ・海外の音楽や地方の音楽、発声方法やミュージシャンとの合奏。知らないことを知ることが出来、とても楽しかったから。
- ・音楽のいろいろな不思議が学べた。
- ・いろいろなアーティストのうたを聴くことができた。
- ・いろいろな歌手の人がいろいろな曲を歌ってくれたりして楽しめた。
- ・知っている曲があったから。
- ・アーティストのいろいろな音楽を聴けた。
- ・音楽を聴くことができ、楽しかった。
- ・はじめてのオンラインでの音楽の授業が楽しかった。

- ・音楽の内容が自分の中では楽しめなかったから。
- ・知らない歌手ばかりだった。
- ・知っている曲もあれば初めての曲もあったからです。
- ・出演する歌手の認知度が低い。
- ・知っている曲が出て少し楽しめた。
- ・楽しく参加できたと思いました。
- ・登場する曲が、勇気づけられたり励まされたりする歌ばかりだったので、とても良かったです。また、クイズも出題されたので、楽しめながら取り組みました。
- ・いろいろな人がいろいろ教えてくれるから。
- ・いろいろな方が、様々な歌を披露して下さった。
- ・全て参加した訳ではないし、歌を聞くだけだったから。
- ・皆と授業ができてうれしい。引地先生の声が楽しかった。
- ・曲に合わせて声を出したりしている様子がみられるとの事で、歌の好きな娘は楽しいと思います。

3 「おんがでつながろう」の講義は勉強になりましたか

とても勉強になった まあ勉強になった ふつう あまりならなかった ならなかった

9

7

3

2

1

4 その理由を教えてください

- ・今まで知らなかったたくさんのおもしろいことを楽しく教えていただいたので。
- ・知っていることもあったが、知らない海外や地方の音楽を詳しく勉強出来たから。
- ・音楽はとてもたいせつだなと思った。
- ・メロディーは知っていたが、曲名がわからない曲を授業の中で知ることができた。
- ・自分の知らない曲などがたくさんあって、いろいろな曲を知ることができて勉強になった
- ・呼吸にはいろいろな呼吸があることを学べた。
- ・音楽が持つ力を学ぶことができた。
- ・とても勉強になりました。
- ・音楽で勇気をももらったり、アニメの曲をきくことができた。
- ・さまざまな世代の音楽を知れたから。
- ・知らない曲だらけだった。
- ・いろいろなことが分かったからです。
- ・就労に向けてのスキルを身に付ける場だから。
- ・学びかと言われたら娯楽のイメージがある。
- ・歌で元気をもらえればいいと思います。
- ・登場する曲の歌詞の意味を、先生が分かりやすく解説して下さい、曲の効果を教えて

下さったので、勉強になりました。

- ・発声とか勉強になった。
- ・もう少し学術的なことをやってもいいのかなとは思う。
- ・分かりづらかった。

5 これからも勉強したいと思いますか

とてもおもう まあおもう ふつう あまりおもわない おもわない
10 6 3 2 1

6 どんな勉強をしたいと思えますか

・大好きな歌を講師の先生と一緒に楽しく勉強したいし、講師の先生からいろんなジャンルのおすすめのお歌や曲をたくさん教えてもらいたいです。また、自分で歌詞や音楽を作ってみたいです。

- ・ポップスに限らず、あらゆるジャンルを聞きたい。また、音楽史なども復習したい。
- ・もっと変わった音楽を聞いてみたい。
- ・みんなで歌うコーナーで手拍子だけでなく、大きな声で歌えたらいいと思う。
- ・たくさん自分の知らない曲を聞く。
- ・もっと変わった音楽を聞いてみたい。いろいろなボカロ曲を知りたい。
- ・いろいろな楽器の特徴。
- ・カラオケで歌って、ダンスをやりたい。
- ・ようかいウォッチやオペラを勉強したい。
- ・自分の世代以外の曲を聞くことがあまりないので他の世代の曲を勉強してみたいです。
- ・色々なアニソン、ボカロ。
- ・みなさんが知っている曲と一緒に歌えることがあればいいと思います。
- ・お寺や神社についての学習や語学の学習（中国語）をしたいと思えます。
- ・もっと歌が上手になりたい。
- ・歌だけではなくて他の音楽も聞きたかった。楽器演奏、合唱など。
- ・お話の勉強をしたい。

7 これからやりたいことを自由に書いてください

- ・合唱曲、クラシック、ミュージカル、映画音楽、童謡、唱歌、NHK みんなの歌。日本の歌や曲に加えて、いろいろな国の歌や音楽を勉強してみたいです。
- ・どんな人でも出来る表現方法を考えたい。音楽を通じて沢山のひとと繋がりたい。
- ・笑顔予報や明日へを歌えるようになりたい。
- ・いろいろな曲をたくさん聞いてみたい。
- ・みんなと一緒にボカロ曲を歌ってみたい。
- ・アーティストとタッグを組んでみたい。
- ・毎週やるなら参加している人の中から代表人を決めてその方のベストソングを皆で

きくのはダメなのでしょうか？

- ・音楽は普段あまり聞かないので、カラオケに行ってみたいと思います。
- ・作ることが好きなので、制作、塗り絵など。
- ・みんなの大学校に行きたい。

8 これからの要望などありましたら自由に書いてください

・オープンキャンパスの時のように、みんなやグループで、歌や音楽を作ってみたいです。配信の時のように講師の皆さんでたまにコラボをしたり、コンサートをしてくれたらとってもうれしいです。1年間、とっても楽しかったです。本当にありがとうございました。

- ・頭声的発声の練習や歌うためのストレッチが知りたい。
- ・スクリーン上で、歌詞が見えるようにしてほしい。
- ・リズムをとるのが楽しかったので、またやってみたい。
- ・ボカロの踊りをみんなで踊ってみたい。
- ・バンドを組んで演奏してみたい。
- ・明るい歌、暗い歌を知りたい。
- ・有名な曲を出してほしい。
- ・知らない人を出してもわからない。
- ・音声が途切れるのを改善してほしい。
- ・今までの講義の裏側を知りたい。
- ・もっと先生たちとつながりたかった。医ケアの人もあるからもう少し分かりやすいのが良かった。
- ・テレビ電話がしたい。
- ・オープンキャンパスでみんなのおもいを「うた」にしようコンサートで、みんなで作った歌を披露したとあったので、さくらの皆とうたがつくれたらうれしいです。CDなどに記念で思い出を残せたら良いです。

【支援者・関係者用】みんなの大学校「おんがくでつながろう」講義アンケート

1 「おんがくでつながろう」の講義の評価をしてください

とてもよかった	まあよかった	ふつう	あまりよくなかった	よくなかった
9	6	0	0	0

2 その理由を教えてください

- ・講義を毎回とても楽しみにして、毎日を頑張る張り合いになっていた。
- ・たくさんの歌手の方の曲を聴いたり、一緒に歌うことができ、とても良い経験になった。
- ・毎週アーティストが変わり、変化があり楽しめた。引地先生を中心に、アーティストや各地の方々のコミュニケーションも楽しめた。

・講師の先生方がとても熱心に優しく接してくださる姿に感動しました。音楽の持つリラックス効果をみんなで感じる時間だったと思います。

・利用者が楽しそう。

・分かりやすいテーマと、様々な家庭・施設の皆さまとの交流の機会が持てたこと。

・プロのミュージシャンの方が温かく講師をつとめていただいたのでよかった。

・だんだん、つながる施設が増えていったのは良かった。色々な方がやって下さってスタッフ側も勉強になる部分があった。利用者さんを取り込んでやって下さると利用者さんも楽しまれていた。

・音楽をテーマにしているので、誰でも親しみやすく、講師の方もメインの方が軸となり、他の回ではいろいろな講師の方が参加されたり、構成も非常に良かったです。ぜひ来年も視聴したいです。

・音楽を通してのすばらしさ、言葉をつないでいく楽しさ、曲のおもしろさや、他の施設のみなさんなどにリモートを通してかかわり合いが持てることは、とても関心が広がりに、利用者さんの中にはこの授業を心待ちにしている方もいました。

・音楽を通し利用者さんが楽しそうだったので良かったと思う。

・ふだん知る事のないジャンルの音楽、地域の方と関われる。

・受け身になることも多かったと思うが、講義は難しすぎず良かったと思う。

・障害レベルの差が大きいので、すべて楽しめる人（理解できる人）ばかりではなかったが、「聴く」ということでは全員参加できてよかった。

・音楽は万国共通の言語である。

3 「おんがでつながろう」の講義は「学び」として有効と思いますか

とても有効である まあ有効である ふつう あまり有効ではない 有効ではない

7

6

3

0

0

4 その理由を教えてください

・プロフェッショナルの皆さんに音楽を教えていただいて、普段生活していたらできないようなことをたくさん体感することができ、五感からたくさん「学び」になっていると感じるので。

・余暇活動につながる学びだと思います。

・音楽について「へえ〜」「そうなんだ」という発見や学びがあり、自ら何かやってみようという主体的な活動につながる学びがあった。

・ストレス社会なので、音楽の持つ癒し効果、想像力・創造性が高まる場所などは有効だと感じました。

・見てないので分からないのですが、知らない方と接することで得る（学ぶ）ことはあるのではないかと思います。

・そこでしか体験できない開かれた場という環境そのものがよい刺激になると考えたから。

・参加者が一緒に参加している意識が強いと思う。

・演歌のこぶしの説明などは、利用者さんも勉強になったとおっしゃっていました。

・クイズ形式で質問されたり、画像や動画の視覚だけでなく聴覚からの情報もあり、多くの方に有効であったと思う。また、オンライン、双方向型で適度の緊張感があることもよかった。ふりかえりもよかった。

・授業のつながりが、もう少し連続しているといいのかなと思いました。どう学びにつながったのか、施設として個々の振り返りをしていなかった点で、有効だったことが減点されてしまいました。こちらの反省です。

・利用者さんが有効であると思えば有効だと思います。

・双方向でのつながりだが、自発的な「学び」になりにくく、受ける事が多かった。

・季節、楽器、講師を通し経験したことのない事や知らない事を学べたと思う。

・演奏会（独唱会）の色が強く残った。理解できる人ばかりでなかった。受け身の授業の印象が強かった。誕生日（月）をとりあげてくださったのはとてもよかった。喜んでいました。

・理屈でなく、自然と身に付く。

5 「おんがくでつながろう」の改善点や修正点についてご意見ください。

・講義で難しい話になったり、自分ができない難しいことをやってみましようとなると、やはり混乱して疲れてきます。支援者がそこを機転をきかせてその学生なりにできるとことや、理解できるように工夫する必要性を感じます。講義中ではすぐに対応することが難しいので、そのような講義の内容になる場合は、あらかじめ講義内容を教えていただいたほうが良いと思います。なるべく、重度障がいの学生向けなら、難しくならない講義内容をお願いできれば一番良いと思います。ただ、インクルーシブを考えるといろいろな学生に対応できたほうが良いとは思いますが。

・みんなで歌う場面で、アーティストと歌詞が2画面で表示されると臨場感が生まれるのですが、Zoomでは難しいでしょうか。当方のネット環境にもよるのか、歌が途切れ途切れになってしまうことがありました。

・音が途切れたり、聞き取りづらい所があった。

・Zoomだと音楽の音をひろうと音量を調整して聴きづらくなるように思います。

・もう少し早くスタンバイできる状態になると（ホストから受け入れできる）、微調整できる部分があるので、もう少し早くして頂けるとありがたい。1回でもいいので、生演奏（来て頂いて）をきかせてあげる機会があるといい。

・開始時間、終了時間がもう少し早く設定していただけると、お昼の準備がスムーズになる。（もちろん施設としての意見です）

・なかなか双方向は難しい（時間的にも）ですが、リモートの良さはどこにいてもつながる点なので、リモート環境の整備が大切と思いました。

・途中で音が大きくなったり小さくなったり聞こえなくなったりしたとき、メッセージを送っているので見てほしい。内容が難しい講義もあり、ついていけない方も多かったと思います。先生だけが歌うのではなく、もう少し皆で出来たらなあと思いました。

・楽器を用いるなど1つでも全員参加できるものが、そう感じられるものがあると良いかな

・少し間延びがする。

6 今後、当時者向けの「学び」にどのような取組が必要と思いますか。

・重度障がい向けならば支援者が大切になってくると考えます。

・生活を豊かにする学びとして取り組んでいると思います。余暇を音楽鑑賞や歌唱、楽器演奏を行って過ごすには、どんな支援の形があるのか考えていきたい。

・ご利用者と一緒に参加できる取組。

・もし可能でしたら、参加予定者へ事前説明や参加するための有用な楽器の選択などできたら、より当事者の方へ「学び」としての理解を得やすいかもしれません。

・音、リズム、詞、音楽を通して五感に働きかける学びは奥が深く、続けていただきたいと思います。

・難しいと思いますが、もう少し参加型だと良いと思いました。

・発言の難しい方々へのサポート。

・「受ける学び」と「参加型学び」を分けるか、混合させるか。

・当事者だけの狭い関係でなく、幅広い人種、世代を意識した取組。

7 今後のカリキュラム等のアイデアがあれば教えてください

・「学び」は生きる上で本当に大切なものになると思います。その「学び」を実感できるために、「学び」から具体的なものが見えるとさらに実感が積み重なり、生活への充実につながると考えます。この「音楽でつながる時間」の講義で考えると、個々の作品として残るものをこれからもたくさん講義を通して作っていただけたらいいのではないかと思います。

・様々なジャンルの音楽の特徴紹介や楽器の紹介もあればよいかなと思いました。

・各国伝統の楽器やその国の文化を知る。

・音楽でつながるということなので、もっと色々なジャンルを勉強したいとの声がありました。ボカロ、アニソン、ラップ、メタル、ジャズ、歌謡曲など。

・毎回1つでも楽器を使う。1ヶ月、3ヶ月？を通して1つの歌を歌う、とりあげる等。

・家族・部族の音楽の背景、ルーツを探る。

8 これからの当事者向けの学びの実践に関する要望などありましたら自由に書いてください

・ゼミ形式の学習の時間も数回あればいいかなとは思いますが。

本当に目を輝かせて毎回講義を楽しんでいました。そんな様子を見ると、こちらもうれしくなり、頑張ろう！という気持ちになりました。主治医の先生をはじめ、支援してくださる方が、講義を頑張っている様子を本当に喜んでくださいました。本当にみんなの大学校に出会えて幸せです。本当にありがとうございました。これからもよろしく願います。

・各事業所や個人ができる範囲で、声を出したり手拍子をしたりして参加することができたので、今後も続けていけると良いと思います。参加させていただき、ありがとうございました。

・今のままで十二分に利用者も楽しんで参加されていた。

・音楽を楽しむ取組はいいと思います。

・サームさんのお誕生日の歌とても良かったです。講義がない月の方にも歌ってほしいです。

・いろいろなアプローチを望む。

【開発プログラム】

本講座は講師の音楽家のみなさまに本プログラムの内容における企画や目標を明確にし、それらに向けたアプローチや考え方を示し、自主的な内容を提示するために協議を進めてきた。講義の前にはファシリテーターと話し合い、講義のテーマやコンセプト、曲やその説明について検討し、資料を作成し毎回新しい講義を行ってきた。さらに毎回の講義では受講者の反応や感想、周辺の支援者や関係者の声を得ながら、その効果と課題を抽出し、その都度次の講義に活かしてきた。この結果、以下の項目を遵守することがよりよいプログラム作りに結びつくことが分かった。

・全体の構成—50分講義、双方向性の確保、言葉だけではなく資料でことばと絵で表現

・プログラムの流れ—自己紹介→各地を結ぶリレートーク→テーマの説明→歌とその意味・背景説明（画像とことばとともに）→感想や要望などをベースに対話→参加ミュージシャンがフィードバック

3 重度障害者が企画する学びのプログラムの実践

3-1 経緯

2018年度から本委託研究事業を行う中で、初年度は重度障害者の学びに関する実態を把握する調査研究を行い、東京都小平市の地域ケアさぼーと研究所の飯野順子理事長、下川正洋理事から話を聞き、実際に4名の学びの現場を視察することから現状を把握した。2019年度は視察した4名を実践的な学びとして、障がい特性の違う4名に対する学習プログラムを体系立てて実施し各講師・担当者から報告をいただき、それぞれの特

性によって取組の違いを浮き彫りにしながら効果的な学びについて検討した。この取組を全国に周知させ、ニーズの把握も念頭にして第1回の共生社会コンファレンス関東甲信越では「重度障がい者への学びの支援」を1つの分科会として設定した。2020年度はこれらの動きをさらにネットワーク化するために「第一回医療的ケア児者の生涯学習を推進するフォーラム」を開催し全国をネットワーク化することを試みた。同時に継続して訪問講義を実施したがコロナ禍の影響もありオンライン講義に切り替えた学生もいれば、オンラインでは難しい学生、施設への訪問が難しく中断せざる得ない状況も出てきた。2021年度は学習をオンライン前提にしながら展開し学生によっては青森大学、白百合女子大等オンラインでの交流も出来るようになり、ほかの学生と混じってのオンライン講義は社会へ広がっていく学びの可能性を示した。第2回医療的ケア児者の生涯学習を推進するフォーラムも開催し、みんなの大学校は発表者としても埼玉県川越市のB型事業所との活用による学習支援を報告した。

これらの経緯を受けて学びの発展による「つながれる」可能性を確認し、それを自分たちが考え、集め、発信するという「自立」的に行うことを目的とし、本事業は始めて重度障がい者自らが企画委員として学びを考え、実践し、支援者がそれをサポートする枠組みを考え実施した。

3-2 内容

3-2-1 企画委員会

学びの場をつくるプログラムづくりの着手を前に企画委員3名を任命し、任命した2名が杉並区在住で集合へのアクセスの方法や場所が限られるため、開催地を同区内の西荻地域区民センターとし、1名がオンライン参加となった。6月11日の企画委員会では「何を学びたいか」の協議から開始し、3名の障害特性からコミュニケーションの制限があることから、2名には介助者や家族が同行し、1名はオンラインで介助者2名とともに参加し企画委員会での協議をサポートした。

企画委員会での協議の結果「音楽をやりたい」との意見で一致し、その上で「うたをつくる」との提案に対して、企画委員全員の同意を得て「音楽を学ぶ」「歌を作る」学びを企画することとした。

日時：6月11日

場所：西荻地域区民センター（東京都杉並区）

参加者：10名



(写真) 協議の様子

3-2-2 第1回オープンキャンパス

第1回のオープンキャンパスは歌を作る前に「うたとことばを学ぶ」ことをテーマとし、西荻地域区民センターを主会場にハイブリットで開催することにし、重度障がい児者の生涯学習を推進するネットワークを通じての告知のほか、全国の特別支援学校等に案内を発送した。8月27日に開催されたオープンキャンパスでは企画委員のほか、オンラインで新潟や関西からの参加もあり、音楽と言葉について、意見を出し合いながら学んだ。講師はファシリテーターとして引地達也みんなの大学校学長が担当し、自身もいくつかの歌曲の作詞を担当し発表している経験から、ことばづくりに関するレクチャーを行った。歌作りに向けて参加者からいくつかの言葉のイメージが示され、次回までにいくつかのテーマに沿って派生する言葉、想像する言葉を「ことば」もしくは「詩」の形で示すことを課題とした。

日時：8月27日

場所：西荻地域区民センター（東京都杉並区）

参加者：15名

第1回オープンキャンパスのチラシは以下である。



2022年度第1回
重度障がい者向けのオープンキャンパス

みんなのおもいを 「うた」にしよう

誰もが「学べる」
オープンキャンパスです。
コミュニケーションを学びながら、
重度障がい者の方々を中心に
みなさんで「うた」を作っていきます。
第1回から第3回まで予定しています。
お気軽にご参加ください。



日時：2022年8月27日（土）
午前10時～12時

場所：西荻窪地域区民センター

〒167-0034 杉並区桃井4丁目3番2号

講師・ファシリテーター：引地達也・みんなの大学校長

無料です。
参加希望は
070-3166-1616
まで

遠隔からズーム開催も可能です。
第2回は10月、第3回は12月に予定しています。
この学びの中で「うた」を完成していきます。



本事業は2022年度文部科学省「障害者の多様な学習活動も総合的に支援するための実践研究」における障害者の生涯学習におけるウェブ利用展開と社会教育リソースの活用研究」の中で行われます。

主催：一般社団法人みんなの大学校
問い合わせ：070-3166-1616



みんなの大学校
-学び、て君が花開く-



オープンキャンパスの様子

3-2-3 第2回オープンキャンパス

第2回のオープンキャンパスは10月8日に西荻地域区民センターで実施し、課題とした「ことば」「詩」の提出を受けて、実際に音を入れる作業に着手するため作曲家の森藤晶司さんを講師に招き、言葉を実際に歌にすることをピアノの演奏を交えて行った。提出された言葉は第一回に参加した当事者6名からのもので、これをもとに歌詞に整理していく予定だったが、講義中での対話からその場で様々な言葉が会場やオンライン参加者から出され、結局即興で歌詞を作り、それに森藤講師がピアノでメロディーをつけていくという流れで歌のアウトラインが出来上がった。

オープンキャンパスでは時間が限られるため、歌曲を精緻な音楽にするための作業は専門家に依頼し、また歌詞の細部も作詞に名を連ねる各当事者と個別のやりとりをすることにした。

日時：10月8日

場所：西荻地域区民センター（東京都杉並区）

参加者：15名

第2回オープンキャンパスのチラシは以下である。



2022年度第2回
重度障がい者向けのオープンキャンパス

みんなのおもいを 「うた」にしよう

誰もが「学べる」
オープンキャンパスです。
コミュニケーションを学びながら、
重度障がい者の方々を中心に
みなさんで「うた」を作っていきます。
第2回からでもお気軽にご参加ください。

日時：2022年10月8日（土）
午前10時～12時
場所：西荻窪地域区民センター
〒167-0034 杉並区桃井4丁目3番2号
講師・ファシリテーター：引地達也・みんなの大学校学長

遠隔からズーム開催も可能です。
オンラインご希望の方はメールで
当日のURLをお伝えいたします。

無料です。参加希望は
070-3166-1616もしくは、
kouhou.minnano@gmail.com
まで

本事業は2022年度文部科学省「障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」における障害者の生涯学習におけるウェブ利用展開と社会教育リソースの活用研究」の中で行われます。

主催：一般社団法人みんなの大学校
問い合わせ：070-3166-1616




オープンキャンパスの様子

3-2-4 第3回オープンキャンパス：みんなのおもいを「うた」にしようコンサート
第2回でアウトラインを作った歌は、歌詞を担当する当事者とメールや訪問等で細部の確認を行い、タイトルを検討した。検討の結果、タイトルは「はっぴいそんぐ」とな

り、歌曲としての仕上げは事業1で「音楽でつながろう」講義を担当するサームのハマ氏、ケンゴ氏に依頼した。出来上がった曲は1月22日のオープンキャンパスをコンサートとして披露するために、企画委員には完成を事前に確認してもらい、当日の発表で演奏に加わる準備を行った。また1月22日のオープンキャンパスはコンサートとして「はっぴいそんぐ」の発表だけではなく、事業1で参加したミュージシャンが参加者と一緒に音楽を楽しむことも同時に行う趣向としてプログラムを構成した。

一般参加の方々の参加を促しインクルーシブの学びの場として機能することも念頭に、事業4の指定管理関係者のケーススタディとしても提供した。参加プログラムでは以下の文章を掲載することで、障害者の生涯学習の位置づけを明確にした。

趣旨・経緯

本事業は2022年度文部科学省「障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」における「障害者の生涯学習におけるウェブ利用展開と社会教育リソースの活用研究」の中で行われます。

重度障がいのある方が「学ぶ」ため、自らが企画委員となって学びを考え、実践したのが今回のオープンキャンパスです。企画委員会の話し合いを受けて、テーマは「うたをつくる」ことにしました。第1回のオープンキャンパスでは歌や言葉について学び、歌の言葉を考えて、それぞれが歌にしたい言葉を課題として提出しました。第2回オープンキャンパスでは集まった言葉を作曲家の森藤晶司さんとともに歌にしてみました。

今回のオープンキャンパスは完成した歌をお披露目するとともに、重度障がいの方の講義を担当して下さった歌手のみなさんと交流しながら音楽を通じた「学び」を深めていく内容です。

また参加を呼びかけるために事前の告知活動として出演者がツイキャスを使った配信で事前の告知を行った。事前配信はアーカイブで無料で視聴が可能。URLは以下である。

<https://twitcasting.tv/officekaoru>

日時：1月22日

場所：西荻地域区民センター（東京都杉並区）

参加者：30名、視聴者：オンタイム50名、アーカイブ視聴：300名以上

第3回オープンキャンパスのポスター及びチラシは以下である。

2022年度第3回
重度障がい者とどなたにも向けたオープンキャンパス



みんなのおもいを 「うた」にしよう コンサート



誰もが「学べる」
オープンキャンパスの最終回です。
重度障がい者の方々が作った歌を
披露し、歌手のみなさんと歌います。
出演者のパフォーマンスも楽しめます。

無料です。参加希望は
070-3166-1616もしくは、
kouhou.minnano@gmail.com
まで

日時：2023年1月22日（日）
午前10時～11時半

場所：西荻窪地域区民センター

〒167-0034 杉並区桃井4丁目3番2号

出演：サム（ハマ/ケンゴ）
奈月れい、慈光

ファシリテーター：
引地達也・みんなの大学校長

遠隔からツイキャス視聴も可能です。



本事業は2022年度文部科学省「障害者の多様な学習活動も総合的に支援するための実践研究」における障害者の生涯学習におけるウエブ利用展開と社会教育リソースの活用研究」の中で行われます。

主催：一般社団法人みんなの大学
問い合わせ：070-3166-1616

MINDAI
MINNANO COLLEGE OF LIBERAL-ARTS

みんなの大学
学び、てががも輝く。

出演者の紹介

ピアノコーラスグループ「サム」の濱野崇（ヴォーカル）、笹木健吾（ピアノ）

早稲田大学アカペラサークル”Street Corner Symphony”出身のリーダーHamaを中心に2005年に結成。Hama(ハマ)の個性豊かなボーカルとKengo(ケンゴ)の美しいピアノの旋律が創り出す「赦し」の世界観は多くのファンを魅了している。

歌手・奈月れい

2011年「母の日に/マイハート」でCDデビュー。デビュー記念コンサートを目黒雅叙園にて公演。石神井交通安全協会主催イベントやライブなど多数出演し、歌謡曲・演歌・ポップス・ジャズなど幅広く活躍。2015年「美山川/母の日に」でメジャーデビュー。2016年「明日へ」がケアメディア推進イメージソングとして発売。

シンガーソングライター・慈光

「等身大の愛と平和」をギター一本でいあげるシンガーソングライター。素直で優しいメロディーセンスと抜群に抜ける力強い歌声、「ダイナマイトアコースティック」とキャッチコピーが付く程のパワフルなライブを武器に、現在首都圏を中心に活動中。そのはにかんだ笑顔と実直な歌声は加速度を増して知名度を上げている。

コンサートの視聴 URL (ツイキャスによる無料公開)

<https://twitcasting.tv/officekaoru>

はっぴいそんぐの歌詞

はっぴいそんぐ

作詞 池部準、岩村和斗、小西尊晴、小柳遥、松本勇成、吉川敬二郎

作曲 森藤晶司

1

あなたと出会って 心が踊る

心弾めば 命輝く

明日(あす)への扉が開かれる

出会えた奇跡に感謝して

(いつもありがとうございます)

今日も元気 ごはんがおいしい

みんな笑顔でにっこにこ

(ワッショイ)

たのしくみんなでおどろうよ

※

歌でハッピーバースデイが楽しい

音楽の授業が楽しい

公園で遊んでごはんたべて楽しいな

アンちゃんと通所バスでぼくニコちゃん

2

あさひに向かって 気持ちさわやか

すっきりきまれば 私が輝く

未来への青空広がる

ここにいる奇跡に感謝して
(いつもありがとうございます)

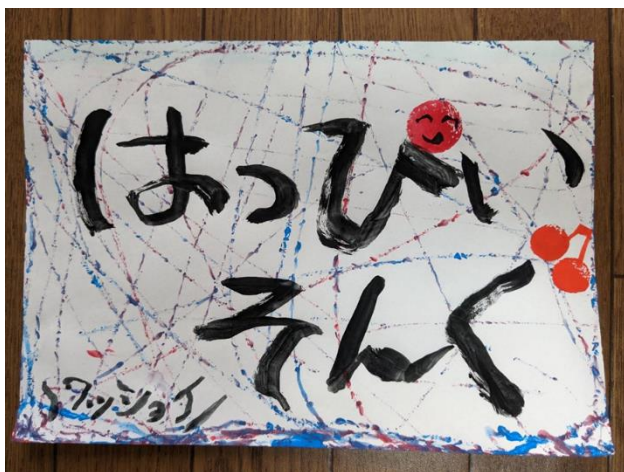
今日もOK ごはんがうれしい
みんな笑ってにっこにこ
(ワッショイ)
たのしくみんなでうたおうよ

※
歌でハッピーバースデイが楽しい
音楽の授業が楽しい
公園で遊んでごはんたべて楽しいな
アンちゃんと通所バスでぼくニコちゃん

ドライブする おふろにはいる
車椅子にのる おでかけする
家に来る人たち 病院の人たち
なかま みんな みんなで学ぶ

※
歌でハッピーバースデイが楽しい
音楽の授業が楽しい
公園で遊んでごはんたべて楽しいな
アンちゃんと通所バスでぼくニコちゃん

作詞担当の松本さんが制作したタイトル



オープンキャンパス・コンサートの様子



3-3 アンケート集計

1 今回のオープンキャンパスは楽しかったですか

とても楽しかった まあ楽しかった ふつう あまり楽しくなかった 楽しくなかった

19 2 0 0 0

2 その理由を教えてください

- ・みんなが楽しそうだったから
 - ・全員参加で、当事者として学ぶ場になっていて一体感があった
 - ・みんなではっぴいそんぐを歌ったこと、みなさんの歌がとても素晴らしかったです
 - ・障害のある方の一生懸命な姿に感動しました
 - ・心温まる優しい気持ちになれる時間だった
 - ・出演者のクオリティが高い
 - ・music♪が好きなので!! ノリノリで盛り上がれました!!
 - ・いい音楽をじっくり聴けたから
 - ・出演者の皆様の素敵なパフォーマンス、会場との一体感を楽しめました
 - ・生歌が聴けたり、皆様との一体感ですね
 - ・リラックスして音楽を楽しめました
 - ・生の音が聴けたこと、音に包まれた感じがしました。一体感が良かったです
 - ・いろんな曲を聴きましたが、やっぱり、自分の言葉に音がつくという経験は初めてだったので嬉しかったです
 - ・やはり出会いですね
 - ・「皆で楽しむ」が実践されていました
 - ・pianoの音と歌声と会場の人と一緒に楽しめまして、とてもやさしくて心が温まりました
 - ・演者さんとの一体感が良かった
 - ・生演奏が聴けた
 - ・ノリのよい音楽のときに手を上下に自らしていた様子。「イエーイ!」「笑顔」「ヤッター」この3つは楽しんでいるサインなので。明るい曲調が多かったのがよかったです。(母)「糸」や「いい日旅立ち」などの選曲もよかったです。
- マイルドハートなでしこでも次年度参加したい要望を伝えたいと思います(シカロームで毎(火)配信の)
- ・歌の表現で自分たちの気持ちが伝わる事。

3 今回のオープンキャンパスの講義は勉強になりましたか

とても勉強になった まあ勉強になった ふつう あまりならなかった ならなかった

16 4 1 0 0

4 その理由を教えてください

- ・誰とでも音楽でつながれると知ったから
 - ・心からの歌詞を目にすること、声が聞けたこと
 - ・はっぴいについて、幸せを感じられる瞬間を自分で見つけられるようにすると楽しくなると感じられたから
 - ・普段あまり関わることがない方々とお会いできた
 - ・楽しいと思える事の幸せを考えさせられた
 - ・様々な音楽にふれることができたので〇
 - ・音楽を通した「学び」がどういうものかが分かったから。無理なく”参加型”のものでした
 - ・様々な工夫で、すてきなコミュニケーションができていた
 - ・みんなで作る歌、音、すてきです！
 - ・どうやって音をつけるのかももう少し聞いてみたかったです。法則とかあるのかな
 - ・単純なことでもいいのだと思いました
 - ・はっぴいそんぐの歌では歌詞を作ってくださった方の心の中がとてもあたたかい、ステキな方々と一緒に過ごせて嬉しかったです。ありがとうございました
 - ・当事者が参加する事で「やる気」と「達成感」を感じる事ができた
 - ・レクリエーション感覚で楽しんでしまいました
 - ・みんなのことばきけた
- (母) 企画委員で話し合ったとき、「うたをつくる」(歌詞)に決まり、次の回から集まった人達から出たことばが「みんな」「感謝」「ありがとう」「うれしい」など共通していて、(身体的に)大変な毎日だろうに、楽しいことをみつける前向きな気持ちと、たくさんの人とかかわる人に対する思いやりの気持ちを知って、私達の方が勉強になりました
- ・音がきれいですてきだった。胸にひびいた。

5 これからも「学び」をしたいと思いますか

とてもおもう まあおもう ふつう あまりおもわない おもわない
 16 4 1 0 0

6 どんな「学び」をしたいと思いますか

- ・病気であきらめていた様々なコト
- ・福祉に関わる目的を常に学び、当事者として新しくあること
- ・もっと人の心の奥の何かに問いかけるような内容
- ・今回と同じ内容で！

- ・音楽療法士に少し興味があります
- ・交流会
- ・人生が潤うような
- ・楽しく生きるために”音楽”を身近なものにすること
- ・いろいろな人とのコミュニケーション
- ・私は空白があるので、学び直しをしたいです
- ・環境問題、インクルーシブ
- ・権威力の成り立ち
- ・一緒に喜びあう時間を過ごして、一緒に生きること
- ・「はっぴいそんぐ」を皆で演奏する、歌詞に合ったイラストや写真を作る
- ・流通、リサイクル、エネルギー、需給関係
- ・「いろ」、「ゲームを作る」オリジナルのすごろく、カーリングとボッチャを混ぜたゲーム、
- 「楽器」、「ユニバーサルデザインの日用品を開発」、「食物の栄養」
- ・いろいろな歌の詞を考える楽しさ

7 これからやりたいことを自由に書いてください

- ・福祉相談職として、積極的に関わり、行動していきたい
 - ・この活動を続けて下さい
 - ・残りの人生をどなたかのお手伝いになれる時間を持つことを捜したい
 - ・また音楽がやりたいです!!
 - ・私は小学校の教師なので(今は特別支援学級)、そこでも生かせたらと思います
 - ・音楽を通しての学び
 - ・好きなことをより追及していきたいです
 - ・どんなことも出来る限りチャレンジして知らないことを学び続けたいです
 - ・一瞬でも自由になること
 - ・こういう時間をもっと増やして、一緒に過ごすことが出来たらうれしいなあと思います
- す
- ・水耕栽培、捨てられてしまう野菜やくだものでジュースを作る
 - ・社会見学
 - ・ミュージシャンの人達と一緒に歌ったり、演奏したり、おどりたい
 - ・ユニバーサルファッションショー、「みんなと会う」
 - ・作詞してみたい

8 これからの要望などありましたら自由に書いてください

- ・輪が広がり、もっと多くの人々が深く参加できるよう願っています

- ・ これからも応援させていただきます
 - ・ はっぴいそんぐのCD化!!希望♡ 今度はもっと長めのコンサート希望♡
 - ・ また呼んで欲しいです。訪問看護師
 - ・ いい時間でした、ありがとうございました
 - ・ もっと大田区に近いと助かります
 - ・ とても楽しくて嬉しい時間でした、ありがとうございました
 - ・ なかなか目に触れる機会がないので、なんとかMINDAIの情報を得ていきたい
 - ・ Psalmのファンというだけで参加して良いのかと気後れもありましたが楽しめました、ありがとうございました
 - ・ 色んな方との出逢いが嬉しいので、これからもオープンキャンパスお願いします!!
 - ・ コロナも終息に近づきましたので屋外活動が増えると良いと思います
 - ・ 「学び」の文化祭
 - ・ Youtubeなどで活動の様子を知らせることができたらと思います
 - ・ とってもとっても楽しかったです。「一歩だけ」、「最初はぐー」頑張りました。
- 引地先生に「作詞してくれた小柳さ～ん」と言ってくださったとき、画面に向かって手を振ってました! 嬉しかったです。ありがとうございました。
- 「はっぴいそんぐ」の引地先生の「いつもありがとうございます!!」の歌がとっても良かったです。
- ・ 奈月さんに歌ってほしい

3-4 事業2の総括

重度障がい者が学びを「提供される」ことをプログラムの基本としていたところから、発想を転換し重度障がい者が学びを「提供する」し、それがインクルーシブの学びの場として社会に提示することを目標としたが、重度障がいによるコミュニケーション対応は支援者や家族の支援が必須であることも浮き彫りになった。

ただこの支援は「学び」の場を作るための期待と希望の中で行われ、当事者はもちろん、関係者や家族も楽しみながら本事業に参加したと見受けられる。アンケート調査でも視聴や参観で参加するよりも実行する側でいることの充実感が増してくることも分かった。

今回、オープンキャンパスで歌を作るプロセスは今後の開催の基盤として整理するとともに歌を作ることで「思い」を伝えることの有効性も示せる可能性を示した。関係者一同は歌が出来上がったことで、今後は普及することで活動を広げ、重度障がい者向けの学びを提供したいとの考えを示している。

4 オンラインでの学びの場づくりの展開

4-1 概要

オンラインを通じて週1度のコミュニケーションに関する講座を福祉サービスや障害者全般に行うことで「学び」の楽しさを知ってもらいながら、実際に社会に役立つ学びを体感してもらうことを目的とした。本講義は新型コロナウイルス禍でのリモートコミュニケーションが奨励する以前から、障がい者がメディア学習の欠如により情報弱者になる可能性を指摘したコーディネーターが名古屋の見晴台学園大学と新潟の KINGO カレッジを結んで講義を行ったことが始まりで、この「遠隔講義」は日本特殊教育学会、日本 LD 学会でも自主シンポジウム等で発表・披露してきた。コロナ禍を受けてリモートによる講義が一般化する中でも障害者の学びの場では浸透度が薄い中で、2021 年度の本事業では名古屋、新潟以外でも山梨や岡山など対象の福祉サービス事業所を広げて交流を展開した。

その結果、他地域との「生の」交流は多くの学生にとって刺激になったばかりではなく、他地域との違いを知り、さらに「知りたい」というモチベーションにつながるなどの成果も見え、本事業でも遠隔講義の効果を確認し発展に向けてのガイドラインを示すために開催したが、結果的に以下の参加者・施設も増え一人ひとりの名前を呼びながらより個々人に交流を実感してもらう考えにおいてはぎりぎりの人数であった。以下の参加者の人数は登録している人数ではあるが、当日の見学や欠席などもあるがおおむね以下の人数が参加した。

【参加者】

- ・福祉事業型専攻科（自立訓練事業）KINGO カレッジ（新潟市）学生 20 名
- ・福祉型専攻科の NPO 法人見晴台学園大学（名古屋市）学生 14 名
- ・福祉事業型専攻科（自立訓練及び就労移行支援）ユニバやまなし（山梨県笛吹市）学生 10 名
- ・就労移行支援事業所ライトハウス大宮（さいたま市）10 名
- ・就労移行支援事業所ライトハウス春日部（埼玉県春日部市）6 名
- ・みんなの大学校に関係する学生や支援者 10 名

4-2 内容

実施日：4-8 月（前期）及び 10 月-1 月（後期）の毎週木曜日 11 時～11 時 50 分

「メディア論Ⅰ」及び「メディア論Ⅱ」として本事業で 2018 年度の集合型で行ってきた時から実施しているもので、メディアリテラシーの向上を目的としており、これが「学び」の楽しさと社会参加を促すきっかけにもなり、情報弱者を克服する観点からも有効であると考え実施した。本年度は参加する地域数も増えていることから、地域間の交流を活発にしなふがら、メディアの基本を前期で学び、後期ではニュースに焦点を当てた。その中で昨今のソーシャルメディアでのトラブルへの対応の必要性から、SNS のリテラシーにも触れる。講義の内容を簡易的にしながらゲームやクイズを交えて、よりアクティブラーニング志向で構成した。毎回のクイズは学生の楽しみになっているよう

で、毎回回答時には各学校での回答を出すまでの合意プロセスについても学べる機会になっているとの反応も得た。

■講義報告

前期

科目名（副題）		開講年次	単位	担当者名
メディア論 I		半年 年	2	引地達也
授業概要				
名古屋、埼玉、新潟、山梨、埼玉、東京の7か所を中心に同時にインターネットで結んでのメディアに関する講義はインターネットを使った双方向性の授業のやり方を学びながら、「メディア」の意味から歴史を知識として得て、双方向のコミュニケーション、コミュニケーションの「実体」を体感していくのを狙いとした。				
授業目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットを使って映像と音声で結ばれるコミュニケーション方法を理解し正しく利用する ・インターネット上のコミュニケーションのルールやマナーを会得する ・メディアの歴史やことばの基本を会得する ・クイズやゲームを通じて仲間とのコンセンサスの手法を学ぶ 				
授業方法				
インターネットによるテレビ会議システム「ズーム」を利用し、東京都のみんなの大学校と名古屋、新潟、山梨、埼玉を結び授業を行った。画面は双方で見られる仕組みで、授業開始時には参加者すべての名前を呼び出席をとることで「一緒に」授業をしていることの自覚を確認する。参加学校は発表やクイズ対抗戦でお互いを意識していき、遠隔にいる学生に考えや回答を求めるなどのインタラクティブなアクティブラーニングを楽しんだ。				
成績評価方法・基準				
出席 70%、授業への参加意欲 20%、発表 10%（評価を必要とする場合）				
教科書・教材・参考文献 等				
パワーポイントで画面提示。				
質問への対応				
授業中にも可				
授業経過（授業日程に若干の変更）				
項 目			内 容	
1	4・14	オリエンテーション	自己紹介と授業の進め方。各地の比較に関するクイズ。次回の各地からの自己紹介の説明。	
2	4・21	メディアってなんだ	各学校からの自己紹介。メディアの基本を考える、誰かに何かを伝えることの大切さを確認。古代メディアの「のろし」について。	
3	4・28	メディアと言葉-日本語	メディアの基本はことば、そのことばの持つ特性でメディアは違ってきます。日本語の特徴を考えていきます。クイズ「象形文字」。	
4	5・12	メディアの歴史-中世から現代へ	手旗信号等、遠くに伝えるメディアから中世の印刷機、現代の写真まで。日本最古の写真についてのクイズ	

5	5・19	メディアの歴史-テレビの誕生	テレビの誕生に関する話と日本で初めてのCMをクイズに。昔のクイズ番組から日本語の変化を学んだ。
6	5・26	メディアの歴史-テレビとことば1	テレビのニュースから昔のことばについて考えた。古代日本語とテレビの日本語について。
7	6・2	メディアの歴史-テレビとことば2	メディアでつくられる「ことば」とメディアで確認される「常識」、「クイズ100人に聞きました」と正義の味方の言葉について。
8	6・9	メディアの歴史-電話から携帯電話	電話からポケベル、携帯電話までの流れを学んだ。ポケベルのメッセージと携帯電話の初期の商品名に関するクイズ。
9	6・16	メディアの歴史-スマートフォン	スマートフォンの成立からその発展を整理した。アプリケーションの重要性を考えアプリに関するクイズ。
10	6・23	メディアの歴史-メディアミックス	メディアは1つの形態にとどまらず、映画やテレビ、ゲーム、商品化などの展開をするメディアミックスを実際のアニメから学んだ。
11	6・30	発表-自分の好きなことを画像とともに1	今期の発表課題は自分の好きなものを1枚の画像のメディアとともに伝えること。KINGO カレッジ2年生の発表。スパイファミリー等。前回の復習に関するクイズ。
12	7・7	発表-自分の好きなことを画像とともに2	今期の発表課題は自分の好きなものを1枚の画像のメディアとともに伝えること。みんなの大学校の発表。月の絵画等。前回の発表を受けてスパイファミリーのクイズ。
13	7・14	発表-自分の好きなことを画像とともに3	今期の発表課題は自分の好きなものを1枚の画像のメディアとともに伝えること。見晴台学園大学の発表。キャラクター、ティンバ等。前回の発表を受けて絵画についてのクイズ。
14	7・21	発表-自分の好きなことを画像とともに4	今期の発表課題は自分の好きなものを1枚の画像のメディアとともに伝えること。KINGO カレッジ1年生の発表。スパイファミリー等。前回の発表を受けてティンバのクイズ。
15	7・28	クイズ最終決戦	14回までの学びを振り返り、それをクイズ形式で確認する。

後期

科目名 (副題)	開講年次	単位	担当者名
メディア論Ⅱ	半年	2	引地達也
授業概要			
後期からは本格的に名古屋、埼玉、新潟、山梨、埼玉、東京を結んでのメディアに関する講義となり、発表やクイズの交流を活発化させた。インターネットを使った双方向性の授業のやり方を学びながら、ニュースに焦点を当てて、ニュースについて考え、自分の身近なニュースを伝えていくことを意識し発表した。			
授業目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットを使って映像と音声で結ばれるコミュニケーション方法を理解し正しく利用する ・インターネット上のコミュニケーションのルールやマナーを会得する 			

- ・ニュースについての意識付けをし、発表することで出来事を伝えることを整理する
- ・クイズやゲームを通じて仲間とのコンセンサスの手法を学ぶ

授業方法

インターネットによるテレビ会議システム「ズーム」を利用し、東京都のみんなの大学校と名古屋、新潟、山梨、埼玉を結び授業を行った。画面は双方で見られる仕組みで、授業開始時には参加者すべての名前を呼び出席をとることで「一緒に」授業をしていることの自覚を確認する。後期はニュースの発表を通じて参加学校は発表やクイズ対抗戦でお互いを意識していき、遠隔にいる学生に考えや回答を求めるなどのインタラクティブなアクティブラーニングを楽しんだ。

成績評価方法・基準

出席 70%、授業への参加意欲 20%、発表 10%（評価が必要な場合）

教科書・教材・参考文献 等

パワーポイント提示

質問への対応

授業中にも可

授業経過（授業日程に若干の変更）

項 目			内 容
1	10・6	オリエンテーション	授業の進め方の説明と練習。コンセンサス練習、5か所のそれぞれの共通点を探し、それぞれのシンボルマークについてのクイズ。
2	10・13	メディアってなんだ	メディアの多様化を学んだ。今期の発表を身近のニュースとし説明。各校からニュースについて発言してもらおう。クイズはスマートフォンの機能について。
3	10・20	ニュースとはなんだろう	ニュースの取得について。自分の身近なニュースと遠いニュースの違いについて。アフリカの遠くにニュースについてのクイズ。
4	10・27	ニュースの歴史 1	遠くに伝えるのろしとほら貝。江戸時代の瓦版を学ぶ。瓦版のアマエビに関するクイズ。
5	11・10	ニュースの歴史 2	ニュースを伝えた伝書バトについて。伝書バトに関するクイズ。
6	11・17	ニュースの歴史 3	米国の火星襲来のパニックとウソのニュース。エイプリルフールのニュースからクイズ。
7	11・24	新聞とニュース	新聞の歴史を西欧と日本の流れで学ぶ。イベント開催での普及からプロ野球設立をクイズで学んだ。新聞題字に関するクイズ。
8	12・1	テレビとニュース	テレビのニュースの発展。昔のニュースからワイドショー化の流れ。イラク戦争とタレントゴシップ。報道ステーションのクイズ。
9	12・8	インターネットとニュース	インターネットニュースの現状。世界的な有名な言葉「ゴブリンモード」とは何か。デジタルメディアの新しい課題。
10	12・15	発表と地域のニュース	デジタルタトゥー。KINGO カレッジの発表。地域ニュースのクイズ。

11	12・22	発表と地域のニュース	インフォデミック。ライトハウス大宮。春日部の発表。前回の発表を受けての補足とクイズ。
12	1・12	発表と地域のニュース	エコチエンパー。ユニバやまなしの発表。前回の発表を受けてうどんやクレヨンしんちゃんについて。
13	1・19	発表と地域のニュース	ディープフェイク。見晴台学園大学の発表。文芸欄に関するクイズ。
14	1・26	発表と地域のニュース	みんなの大学校の発表。見晴台学園大学の発表を受けての補足説明。地域ニュースに関するクイズ。
15	2・2	クイズ最終決戦	学びをクイズで振り返り。優勝は見晴台学園大学。

■講義例

後期第10回 毎回、出席者の名前を呼びそれぞれの反応で出席を確認。遠くにいても一緒に講義を行うことの確認を全体の場づくりにつなげる。クイズが毎回行われるため蓄積した点数経過を明示してモチベーションを高める。後期はニュースについて学んだため、「気になるニュース」を挙手してもらい発表。毎回各地から3人程度が気になるニュースや感想などを述べた。それに対し講師が話をすることで対応した。デジタルメディアの課題に関する講義ではこの日はデジタルタトゥーの復習とインターネットメディアの概要を伝えた。

発表は KINGO カレッジから1人ひとりが自分のニュースを1枚の写真と見出しとワキ見出しで示し、口頭で発表した。クイズは地域ニュースから出題した。

2022年後期 遠隔講義

メディア論Ⅱ 第10回

見晴台学園大学・KINGOカレッジ・ユニバやまなし
ライトハウス・みんなの大学校



KINGOカレッジ (新潟市)
×
見晴台学園大学 (名古屋市)
×
ユニバやまなし (山梨県笛吹市)
×
ライトハウス大宮・ライトハウス春日部
(さいたま市・春日部市)
×
みんなの大学校 (東京都国分寺市)

得点表

	1	2	3	4	5	6	7	8
見晴台	20	0	40	40	20	10	40	30
KINGO1	20	20	—	20	20	20	30	20
KINGO2	20	0	0	20	0	20	20	20
ユニバ	20	0	—	0	10	10	20	10
みんな	20	10	0	30	40	10	30	40
ライト大宮	20	10	40	20	20	10	30	30
ライト春日	20	10	40	0	10	0	30	20
9	10	11	12	13	14	15	合計	
見晴台	20							220
KINGO1	0							150
KINGO2	0							100
ユニバ	0							70
みんな	20							200
ライト大宮	10							190
ライト春日	10							140

後期の予定

1	10・6	オリエンテーション
2	10・13	メディアってなんだ
3	10・20	ニュースとはなんだろう
4	10・27	ニュースの歴史1
5	11・10	ニュースの歴史2
6	11・17	ニュースの歴史3
7	11・24	新聞とニュース
8	12・1	テレビとニュース
9	12・8	インターネットとニュース
10	12・15	発表と地域のニュース
11	12・22	発表と地域のニュース
12	1・12	発表と地域のニュース
13	1・19	発表と地域のニュース
14	1・26	発表と地域のニュース
15	2・2	クイズ最終決戦

ニュースとは「新しい」もの

みなさんにとって新しい情報が
ニュースです。

今日の新しい情報はなんだろう？

メディアニュースの流れ



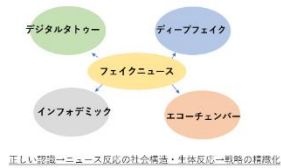
メディア潮流の変化



- 経済
 - ハフポスト
 - ダイヤモンド・オンライン
 - 東洋経済オンライン
 - 日経ビジネス電子版
 - 日経クロストrend
 - 47NEWS
- 海外
 - ウォール・ストリート・ジャーナル
 - ESPN
 - フォーブス
 - BBC
 - CNN
 - CNN.co.jp



インターネットのニュースの新しい課題



デジタルタトゥー

タトゥー
= 入れ墨
⇒ 消えない



デジタルタトゥー

タトゥー
= 入れ墨
⇒ 消えない

インターネットに書き込まれた情報は消えない
⇒ 間違ったニュース、個人情報、誹謗中傷（ひぼうちゅうしょう）



総務省「プラットフォームサービスに関する研究会」最終報告書

- 具体的な対応の在り方
 - ・我が国における実態の把握
 - ・多様なステークホルダーによる協力関係の構築
 - ・プラットフォーム事業者による適切な対応及び透明性・アカウンタビリティの確保
 - ・利用者情報を活用した情報配信への対応
 - ・ファクトチェックの推進
 - ・ICTリテラシー向上の推進
 - ・研究開発の推進
 - ・情報発信者側における信頼性確保方策の検討
 - ・国際的な対話の深化

KINGOカレッジの発表

動物はなんでしょう？

- 1 ブタ
- 2 ヤギ
- 3 カメ
- 4 トラ

■ 講義アーカイブ

メディア論 I 再生リスト

https://www.youtube.com/playlist?list=PLuH_R_H0zTaAgfEI5eItTHvj5XGxnooXW

メディア論遠隔講義 1 4/14 <https://youtu.be/eKEotZ7WIwl>

メディア論遠隔講義 2 4/21 <https://youtu.be/VWINWtELVes>

メディア論遠隔講義 3 4/28 <https://youtu.be/aAWq9P1gjEY>

メディア論遠隔講義 4 5/12 <https://youtu.be/rerSeuzNQsU>

メディア論遠隔講義 5 5/19 <https://youtu.be/his4ox5v0nQ>

メディア論遠隔講義 6 5/26 <https://youtu.be/YD1yqRAIk0w>

メディア論遠隔講義 7 6/2 <https://youtu.be/s5gBJafcYg0>

メディア論遠隔講義 8 6/9 <https://youtu.be/TIQnNjiEu-Y>

メディア論遠隔講義 9 6/16 <https://youtu.be/bXkJl8-zCu4>

メディア論遠隔講義 10 6/23 <https://youtu.be/Jwra8IYbAXw>

メディア論遠隔講義 11 6/30 <https://youtu.be/w-kmv5CHbJw>

メディア論遠隔講義 12 7/7 <https://youtu.be/XG7c33QXaio>

メディア論遠隔講義 13 7/14 <https://youtu.be/tAQY2vqRmXg>

メディア論遠隔講義 14 7/21 <https://youtu.be/wDnOMMGRNOA>

メディア論遠隔講義 15 7/28 <https://youtu.be/C0dqqG2gD7w>

メディア論 II 再生リスト

https://www.youtube.com/playlist?list=PLuH_R_H0zTaC4_P2CavjYzRK6ro_xyWAn

地域のニュースクイズ

小学校に[]がやってきた！1年生2人 命の大切さ、飼育で学ぶ
糸魚川・根知小で歓迎式

2022/10/12 16:30 (最終更新: 2022/10/12 16:30)

命の大切さを学ぶため、新潟県糸魚川市の根知小1年生が[]の飼育を始めた。生活科の一環で農場から借り受けた。11月中旬まで健康観察や散歩などに励み、思いやりの心を育む。

同小は全校児童26人で1年生は2人。3日に上越市大湯区の朝日池総合農場から[]1匹が到着し、歓迎式が学校の敷地で開かれた。



思いやりの心を育むために[]を飼った根知小1年生。糸魚川市

メディア論遠隔講義 II 1 10/6 <https://youtu.be/-rtLaBhMgvk> 55 名
 メディア論遠隔講義 II 2 10/13 <https://youtu.be/ilX8ZsfHBfk> 50 名
 メディア論遠隔講義 II 3 10/20 https://youtu.be/iAjhb_IsMug 53 名
 メディア論遠隔講義 II 4 10/27 <https://youtu.be/YIk4Tviw3nw> 52 名
 メディア論遠隔講義 II 5 11/10 <https://youtu.be/SVzKfCw2ENQ> 50 名
 メディア論遠隔講義 II 6 11/17 <https://youtu.be/dUGqDhxAXFw> 51 名
 メディア論遠隔講義 II 7 11/24 https://youtu.be/2_wKT5ADpZg 60 名
 メディア論遠隔講義 II 8 12/1 <https://youtu.be/ZUeLNlrOK0Y> 57 名
 メディア論遠隔講義 II 9 12/8 https://youtu.be/2p7YQhE_nMk 57 名
 メディア論遠隔講義 II 10 12/15 <https://youtu.be/455QCZraCL8> 62 名
 メディア論遠隔講義 II 11 12/22 <https://youtu.be/7XL2n9Fz5LU> 64 名
 メディア論遠隔講義 II 12 1/12 <https://youtu.be/VK8ulA9ErK4> 55 名
 メディア論遠隔講義 II 13 1/19 <https://youtu.be/RsRQubEEolw> 50 名
 メディア論遠隔講義 II 14 1/26 https://youtu.be/QyA_6s46w1M 57 名
 メディア論遠隔講義 II 15 2/2 https://youtu.be/CV0_D8PVFh8 60 名

4-3 アンケート集計

【受講者用】みんなの大学校「メディア論」講義アンケート

1 「メディア論」の講義は楽しかったですか

とても楽しかった まあ楽しかった ふつう あまり楽しくなかった 楽しくなかった

7 7 3 1 1

2 その理由を教えてください

- ・クイズが大好きです。みんなで楽しくできるからです。
- ・いろいろな話を聞くことができ、楽しかった。
- ・クイズの時に多数決で意見をまとめると、自分の意見が当たっていると楽しく、外れると残念だと思った。
- ・いろいろな人とつながれたからよかった。
- ・色々なニュースやクイズなどがたくさんできて楽しかった。
- ・地域のニュースを聞いてよかった。
- ・いつも（特にローカル）ニュースについてアンテナをはることができた。
- ・正解の見当をつけようのないクイズが恐怖でした。チーム戦になっているので、不正解でチームの足を引っ張ってしまう恐怖があります。
- ・クイズ形式で様々な地域の事が知れて楽しかったです。
- ・分かることも分からないこともありました。

- ・学習だけでなく、クイズも取り入れて下さったので、楽しく取り組みました。
- ・メディアに関していろいろ学べて面白かったから。
- ・ニュースのことについてしっかり発表できたこと。
- ・内容が難しかった。
- ・いろいろな事が学べて楽しかった。クイズが難しくて出来なかった。
- ・色々な方面の知識を教えていただいたからです。
- ・ためになる事が多かったから。
- ・オンライン授業だったから。
- ・ニュースが毎回いろんな人の地域なので、メジャーなニュースじゃないと興味がわか
なかつたりすることがあります。

3 「メディア論」の講義は勉強になりましたか

とても勉強になった まあ勉強になった ふう あまりならなかった ならなかつ
た

5

9

4

1

0

4 その理由を教えてください

- ・いろいろなクイズを考えることができました。
- ・コミュニケーションで、声が聞けてよかった。
- ・CM を見ていると何を伝えたいのかのイメージが強くて、メッセージみたいだな
と思うのと、ニュースの成り立ちを知ることができて良かった。
- ・いろいろな県のニュースが分かった。
- ・自分の知らない昔のニュースや情報がたくさんあったのですごく勉強になった。
- ・メディアとはこういうことを意味しているということが分かった。
- ・何気なく受け取っている日々のニュースについて深く考えさせられた。
- ・課題の発表が面白かったです。モデルガンの話が印象に残りました。第2次大戦時の
銃と、現代の銃の両方を持っているのが面白かったです。講師が一方向的に教えるだけ
ではなく、受講者からの発信は個性的で面白かったです。私自身は発信するネタがない
ので、希望者限定がいいです。
- ・勉強にはなったのですが、もう少しだけ掘り下げて説明したり補足をしたりしてもい
いのではないかと思います。
- ・理解出来ないこともありました。
- ・ニュースの歴史や地域の出来事について、先生が分かりやすくご説明下さったので、
勉強になりました。
- ・ニュースの広がり方や伝える側、受け取る側など分かりやすく勉強になりました。
- ・いろんなニュースのことを知れたと思いました。
- ・色々な地域のニュースを聞く事ができた。

- ・歴史の事などが学べた。
- ・時事ネタを多用した講義だったからです。
- ・これからの自分に向けて。
- ・勉強の内容がこの先役に立つと言われるとあまりそうではないと思いました。

5 これからも勉強したいと思いますか

とてもおもう まあおもう ふつう あまりおもわない おもわない
 8 3 5 2 1

6 どんな勉強をしたいと思いますか

- ・いろいろな国の文化や歴史にふれてみたい。
- ・おもしろい思い出をわすれないようにする。
- ・マルチメディアとかだとちょっと想像がむずかしくて、長崎知事が作りをテーマにしていたので、地域のまちづくりとはどんなことだろうと知りたくなりました。
- ・分からない。
- ・もっと色々なニュースを見て、どんなニュースがあるのかなど調べてみたい。
- ・世界のニュースについて。
- ・学ぶ事を久しぶりにしたので、その習慣を続けていきたい。
- ・当たり前にある物がどのような流れで作られているのか？ 例えば卵のケース、パンの袋をとめるためのものなど、なぜその形になったのか。
- ・お寺や神社の学習や語学の学習（中国語など）をしたいと思っています。
- ・メディアの歴史や広がり方などまた学んでみたいです。
- ・クイズが難しかったと思うのもっと学んでいきたい。
- ・二次元関連の話題 キャラクター（リラックマなど）
- ・日本史や美術の勉強がしたい。
- ・幅広い知識を身に付けられるような勉強です。
- ・音楽。

7 これからやりたいことを自由に書いてください

- ・国ごとの違いをクイズで知りたい。
- ・2年生になってもみんなでがんばりたい。
- ・色々な世界のニュースを見る。
- ・世界のニュースをプレゼンしたい。
- ・名刺交換の練習をしたいことともう少し文章力をつけていきたいです。
- ・またメディアに関して学んでいきたいです。
- ・野球の観戦をしたいと思います。

- ・クイズは他の人と話し合えるのであっても良いと思います。
- ・美術の勉強がしたい。
- ・クイズをこれからもやりたいです。(やっていただきたいです)
- ・パソコン関係。
- ・クイズにするならもう少し楽しめるものであってほしい。

8 これからの要望などありましたら自由に書いてください

- ・クイズが楽しかったので、もっとクイズをやりたい。
- ・本格的なニュースを伝えてみたい。
- ・今後もメディアの裏側についてより深く知りたい。ありがとうございました。
- ・動画が見ずらかったので、今後は何か別の形にしていきたいです。
- ・スポーツのことをもっと知りたいと思いました。
- ・特別講座でリラックマの話題を出してくださったのでこれからもリラックマ関連の話をしてくださるととても助かります。
- ・たまには外にレクリエーションで出て、美術館に行きたい。
- ・引地先生は、その筋としてワールドワイドなので、それをさずけていただきたいです。
- ・動画がカクカクだったり、進行がグダグダだったり、少しイラっときた。もう少しスムーズにお願いします。

【支援者・関係者用】みんなの大学校「メディア論」講義アンケート

1 「メディア論」の講義の評価をしてください

とてもよかった まあよかった ふう あまりよくなかった よくなかった
 3 2 1 0 0

2 その理由を教えてください

- ・新聞社のなりたち、意義、マスコミとは？などなかなか知ることのできないメディアについて詳しく知ることができる楽しい講義でした。
- ・知らない分野や国内外問わず、色々な情報を知ることができた。
- ・ニュースの定義、歴史、新聞、ラジオ、テレビと幅広く学ぶことができました。
- ・内容により、利用者様の興味の波が大きく感じました。それとネット環境や通信の難しさを改めて認識しました。
- ・身近なニュースのことで丁寧に説明して頂くなど、また発表会やクイズ形式で利用者が参加できたところでした。
- ・興味があった場合、検索でも得られる範疇の情報かと思われました。

3 「メディア論」の講義は「学び」として有効と思いますか

とても有効である	まあ有効である	ふつう	あまり有効ではない	有効ではない
4	1	1	0	0

4 その理由を教えてください

- ・映像やクイズも交えて、学生が興味を持って学びに参加できるなあと感じました。
- ・いろいろなニュースに対して、興味、関心をもつきっかけになった。
- ・メディアの中にある、動画や音声、文字に興味を持たせ、その意味を考えていく上で、とても有効な学びだと思います。
- ・利用者様の大半がニュースなど自発的に触れようとするのが少ないので、世の中の動向に触れる機会として有効だと思います。
- ・私たちスタッフが教えられないことなどを伝えていただいたことなど、「学び」として有効な部分はあったと思います。
- ・障がい者向け？サポートサイド向け？ “学び” の定義が不明瞭なため。

5 「メディア論」の改善点や修正点についてご意見ください。

- ・知識伝達やクイズで、受講者の思考が主体的に変わっていくので、今後も同様に取り組んでいって欲しいと思います。
- ・通信環境。

6 今後、当事者向けの「学び」にどのような取組が必要と思いますか。

- ・今回のように自らニュースを作るなど、より主体的に参加できる企画があれば良いと思います。

7 今後のカリキュラム等のアイデアがあれば教えてください

- ・国際理解、地域の暮らし、事前環境の大切さ。
- ・世界と日本の文化や生活の比較など見識を広げたい。参加事業所の各地域の紹介と質問での対話コーナーで、積極的な交流もしたい。
- ・カリキュラム後に事業所で私たちが復習など利用者さんと一緒に取り組めるレジュメなどがあれば助かります。

8 これからの当事者向けの学びの実践に関する要望などありましたら自由に書いてください

- ・SNS の危険性を実際にあった問題やニュースを通して知ることができたらいいなと思います。
- ・ICT の活用が QOL の向上拡大につながると考え、テレビ、ラジオの受信型だけでなく、電話、メール、SNS など双方向型のメディア特性を知り、使えるようになる学びも考え

ていきたい。

・オンラインならではのトラブルを想定した対処、タイムスケジュールの現場対応等、受講サイドの費用対効果への配慮。

4-4 事業3の総括

本事業の「メディア論」そのものは障がい者への「学び」の枠組みの中で2018年度から行われ、4年の実績を積み重ねた上で、今回は福祉サービスを利用した受講者や自宅から参加の受講者など様々な形でオンラインの講義を前期15回、後期15回の計30回を継続的に受けることで学びの有効性を確認することができた。

メディア論の名の通りメディアについて学ぶ講義として、メディアへの理解を「人に自分の考えや思いを伝えること」から出発し、自分が発言することやスマートフォンでコミュニケーションをとることもメディア利用であることを理解してもらい、生活する上で大切な学びであることを強調した。

前期は新しい顔ぶれや初めての地域交流に慣れてもらうため、新潟、埼玉、山梨、愛知、東京の各地域の特性をお互いに示しながら交流を行い、対象者は自分をメディアを使って発信することを意識してもらう発表をし、それぞれの個性が発表に現れて個性豊かな内容となった。

後期はメディアの中でも「ニュース」に焦点をあてて、ニュースとは何か、どのように伝わっていくかを考え、最近問題化している「インフォデミック」「デジタルタトゥー」「ディープフェイク」を取り上げ、メディア社会での注意する点を分かりやすく教示した。さらに地域のニュースをほかの学生に知ってもらうために、「自分のニュース」「地域のニュース」を他者にしてもらうための発表も行い、参加した10代から60代までの方々が意欲的に発表に取り組んでいた。

講義やクイズ、発表を組み合わせたアクティブラーニングを目指して展開した講義は、「誰一人取り残さない」ことを目標に掲げていたが、アンケート調査では「分からないところがあった」「掘り下げてほしかった」等、理解できる受講者と理解できない受講者が存在することになり、まだまだ改善する必要も痛感している。

メディア論の項目は障がいにより情報弱者にならないために必須の「学び」でもあり、今後もメディアをてこにした新しく、かつ誰ひとり取り残さない学びの確立に向けて取り組む必要があるようだ。

5 社会教育施設におけるインクルーシブな学びの場づくり研究と展開

5-1 概観

インクルージョン&ダイバーシティ社会の実現を目的に「誰も取り残さない」学びの場づくりを民間業者が関係機関や当事者とともそのノウハウを集積し、全国各地の社会教育施設での展開に向けての研究及び実践が本事業である、そのために社会教育施設

を指定管理者として運営するサントリーパブリシティサービス社と連携しこれまで蓄積を礎に障害者の生涯学習の場としての役割を担うために研究に着手した。以下は同社の担当者と事前協議した上で抽出した本取組みのポイントである。

- ・場づくりに向けた基本として障がいとは何か、障がいと社会についての深い理解を養う

- ・障がい者の「学び」に関する見識を高める
- ・当事者との関わりの中で学びの場づくりの実態を知る
- ・場づくりを実践することで地域・当事者・行政との連携を確実にする
- ・連携を地域モデルとして全国に波及させる

これらの項目に則り本年度は研究会を実施し、抽出した全国の4施設でのヒアリングを実施し、ガイドラインの素案を策定した。

5-2 内容：本年度の取組

第1回研究会

日時：2022年8月2日（火）午後1時～午後3時

場所：オンライン開催

項目及び内容	発言者	時間
あいさつ	みんなの大学校 SPS社	1300-1305
事業説明 ・文科省の本事業の説明	引地	1305-1315
参加者自己紹介	出席者全員	1315-1325
パート1 障害者の権利と社会背景の説明 場づくりに関する基本的な考え方 障害者と社会教育施設と国の動向	引地	1325-1355
質疑応答		1355-1420
パート2 今後に向けて 全国の動き 研究の方向性とオープンキャンパスのアイデア	引地	1420-1440
ディスカッション		1440-1455
まとめ		1455-1500

第2回研究会

日時：2022年12月6日（火）午後3時～午後5時

場所：オンライン開催

項目及び内容	発言者
あいさつ	みんなの大学校 SPS 社
参加者自己紹介	出席者全員
パート1 障がい者に対応する場づくりに関するヒアリング状況と各施設からの発言	引地 各施設担当者
質疑応答	
パート2 ガイドラインの作成に向けて ガイドラインの素案を示し討議	引地 各施設担当者 出席者
ディスカッション	
オープンキャンパスの案内 まとめ	引地

第3回研究会

日時：2023年2月14日（火）午前10時～午前12時

場所：オンライン開催

項目及び内容	発言者
あいさつ	みんなの大学校 SPS 社
参加者自己紹介	出席者全員
ガイドライン素案に対する意見表明 まとめ	引地 各施設担当者

5-3 ガイドラインの素案

社会教育施設の学びの場づくりに向けた留意点と認知ポイント5項目

1 インクルーシブな「学び」の可能性を視野に置いた運営を行う

(1) 「学び」とは何かの確認-知的障がいでも成立する学び

人間にとっての「学び」を社会科学の見地から確認した上で、障がいの有無に関わらず、知的障がいのある方にとってもそれぞれに特性に合やすことで学びが成立することを基本に誰もが一緒に学ぶ環境を思考する。

(2) 文科省の政策及び方向性の確認-国が求める社会教育施設の役割

文部科学省の諮問委員会が出された障害者の生涯教育に関する基本的な考え方を及び政策の方向性を学習し、その中で学習を行う場の在り方と推進する人員の行動のあるべき姿を考え、行動する。

(3) 障がい者に関する国際基準の確認-障害者権利条約を理解する

2014年に日本が批准した障害者権利条約の生涯学習の考えを深く理解し、批准した他国での障害者の生涯教育の事例等から学び、国際基準の感覚を磨く。

2 障がいへの理解促進を実証的に進める

(1) 行政区分の3障がいへの理解-知的・精神・身体それぞれの特性について

障がいの3区分の認定プロセスと各障害に関する福祉サービスの差異、各障害の中にある区分、疾患の種類などを学び、その対応も視野に入れて学ぶ。

(2) 重症心身障がい者について—医療的ケアが必要な障がい者の特性と対応

重症心身障がい者の区分やたんの吸引、人工呼吸等の医療的ケアの種類を理解をした上で社会活動への参加における障壁や支援の在り方を理解する。

(3) 発達障がいについて—発達障がいを細分化し、適切な対応を理解する

発達障がいの中でも知的障がいのないASD（自閉スペクトラム症）やADHD（注意欠如／多動症）等、分かりづらい障がいの理解に向け発達心理学の見地から学び、コミュニケーションの特性を理解する。

3 オープンな施設・イベントを企画する

(1) 青年学級の歴史と課題-公民館が展開してきた「青年学級」から学ぶ

1953年に青年学級振興法の制定により広がった青年学級と公民館での取組を振り返り、地域の「学び」の中核として機能してきた社会教育施設のポテンシャルを深く考える。

(2) 芸術活動と障がいに関する知見を高める—芸術作品や音楽、演劇等の活動と障がい者

の取組に関する全国の事例を参考にする

「ギフテッド」と呼ばれるような障がい者の可能性に着目しながらも、その学びの確実性や公平性を担保しながら、芸術や音楽などで可能にする学びの場を実際の実践から学び、考える。

(3) オープンイベントの事例検討-オープンキャンパス等、実際の運営状況の詳細から検討する

「学び」のコンテンツ以外の会場の設定やスタッフのコミュニケーション等を含めオープンイベントの適切な在り方について運営を重ねながら考える。

4 地域に根差した障がい者への適切なアプローチを検証する

(1) 地域での福祉の成り立ちへの理解-各地域での福祉行政とのコミュニケーションを会得する

地域によって福祉サービスの提供のプロセスや障がい者との関わり等に差があるた

めに、地域の実情を理解し、その経緯と未来像を共有し、その中での「学習」提供を考える。

(2) 福祉サービス区分と障がいの現状-福祉行政への理解を深め連携の素地を確保する

学びの対象者は障がい者手帳保持者を中心にしていることを考え、地域内の福祉サービスの内容を理解し、行政が施行している制度やビジョンを捉え、学びの可能性を思考する。

(3) アプローチの方法について—地域で障がい者が置かれている状況を理解し適切なアプローチを考える知見を養う

福祉サービス事業者と連携し障がい者とのコミュニケーションの手法を考え、学びへのアプローチがスムーズにいく手法を確保する。

5 民間企業の役割を検討し関係機関及び専門家と連携しながらダイバーシティ社会の場づくりを探究する

(1) 民間企業としての役割の再確認—企業の特性を生かした取組を推進

企業の目的や理念に照らし、さらに社会的な要請を共有し、もてる企業のポテンシャルを鑑みながら、役割を推進する。

(2) 地域での事例と考え方・動き方から学ぶ—自治体・NPO（市民）主体編

地域の行政団体や市民団体、市民個別の活動の実践から学び、その理解から今後の可能性を思考する。

(3) 地域での事例と考え方・動き方から学ぶ—医療法人・学校法人主体編

地域の学校や病院で実践する障がい者向けの学びを理解し、今後の可能性を思考する。

■ガイドライン素案に対する意見

ガイドラインの素案を提示した第3回研究会では各施設から以下の意見が出された。

項目1

＝学びの可能性をきちんと理解するために文科省の政策や方向性を確認とあるが、

どの政策や方向性を中心に確認をしたらよいのか参考のリンク？先も示してほしい。

＝障がい者の国際基準とはなんなのか？どこを見ればよいのかもガイドラインに表記してほしい。

＝各項目例えばどういうこと？のような例はあるのか？

項目2

＝行政区分の障がいのカテゴリーも表記していると親切ではないか？

＝医療的ケアが必要な人にはこちらから何かできるとは思えないが、介助の方などへのアプローチが必要なのか？直接なのかそのあたりは知りたい。

＝発達障害はいろいろあって難しいので参考文献なのか細分化されている参考資料の

提示がほしい

項目 3

＝イベントを企画する場合に協力いただける福祉機関などがあるのか？

項目 4

＝文化施設は教育委員会や文化系の所轄課管轄なので、福祉行政とのアプローチになにか工夫は必要なのか？ 行政とは別に団体に直接アプローチをしてということで深める方法はあるのか？

＝知見を養うための参考文献やサイトなどがあるのか？

項目 5

＝福祉関連機関のリストや専門家のリストなど、なにかアプローチのきっかけを作れるものがほしい。

全体

＝非常に意義のある内容だが、具体的な例がないと、なかなか取り組みにくい。行政側に話をしても担当者の理解も少ないところも多く、福祉系の担当者でも当事者に文化が必要なのか？という意見があったりするので、勉強会の実施や研究会の実施。当事者との対話というような機会を促してはどうか？

施設側にバリアフリーの考え方は浸透しているものの、学びの場に発展させるには、今後研修や研究を通じて意義を確認する必要があると思われる。これは来年度以降の検討事項である。

5-4 ヒアリング

これらの成果普及や実践に向けて施設と自治体、関係機関が具体的な方策に向けて取り組めるように以下、訪問しての調査研究を行った。これは、これまでの委託研究で培った関係機関や本事業で協働する指定管理業者に関係する施設などをつなぎ、今後、各地域で障害者の学びをスムーズに展開するのを目的として、以下の地域や施設にコーディネーターが直接訪問して実践に向けた取組みに関する対話を実施した。

場所	神奈川県大和市：大和文化創造拠点 シリウス
日時	2022年10月11日午後4時～午後5時半
対応者	館長 三須博之様 事業マネジャー 前田直輝 みんなの大学校：引地達也
状況	同施設のうちサントリーパブリシティサービスはホールの運営の指定管

	<p>理。図書館は TSC, 生涯学習施設は小学館グループが指定管理で運営している。指定管理の5年計画の中で「みんなの音楽会」と題したバリアフリーコンサートを開催し、内容をアーティストと深堀している。年1-2回の計画。演者はソプラノ、鶴木絵里、ピアノ、中川賢一。3つの障害に対応した。行動障害を起こす子供は親が付き添う形になった。</p> <p>1回目は2021年8月22日で80人、2回目は2022年3月31日で100人の入場者がいた。2回目は満席で介助サポートが増えた。3回目は観賞サポートやケアが届かないところを広げる予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小ホールでの開催でゆったり席を確保して行った ・自閉症等、暗くなることで不安になる参加者が想定されるため、会場は明るくして演奏を実施した ・手話は大和市の福祉と連携しボランティア等で対応、そのほかの介助はSPSのスタッフが行った ・肢体不自由、視覚障害、観賞サポートをどうすればよいか協議をはじめている
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・大ホールを使ったプログラムを実施したい ・アウトリーチが難しい ・施設の受け入れ拒否はないが、すべてケアができているということではなので、種別のすべての対応は不十分である。 ・集客に向けて福祉サービスへの呼びかけをどのようにしていけばよいか ・障害を幅広く受け入れるためにどのような対応が必要か。 ・行動障害を起こす人への排除するような感覚をどのように緩和できるのか
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・今後のコンサートを見させていただきながら、今後の在り方を検討していきたい。関わっていければ、効果的に人を呼びこむ方法、福祉サービス事業との連携等を模索したい ・インクルーシブな場づくりに向けた司会進行の在り方を考えていくにあたり情報交換していきたい

場所	山梨県甲府市：山梨県立美術館
日時	2022年10月17日午後3時～午後5時半
対応者	<p>館長 金原様は急な県からの呼び出しにより不在</p> <p>副支配人 神原文江様</p> <p>運営マネジャー 名取司保様</p> <p>みんなの大学校：引地達也</p>

状況	<ul style="list-style-type: none"> ・一般開放用の展示スペースを使って、障害者のアートを展示する試みをしている。午前中に引地が訪問した自立訓練及び就労移行支援事業を組み合わせた学びの場である「ユニバやまなし」も参加しており、美術館が身近な存在になっているのを実感した。 ・所蔵のミレー「種をまく人」を立体化し触ってもらうレリーフ版を山梨大学、山梨県立大学、イタリアの美術館が協同制作し寄贈され、目の不自由な方への鑑賞を提案 ・2020年1月から認知症ケアへの美術鑑賞ワークショップを開催 ・ワークショップを通じて地域とのつながりも広がっている模様 ・何らかの障がいのある人がスタッフに一人ひとり声をかけていくこともある。それなりの対応が身についている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・行動障害の人に対する対応が分からない ・障害者に対する対応のノウハウがない ・行動障害の人が妨げられない時間を作ればよいのではないだろうか
備考	

場所	愛知県岡崎市：岡崎市シビックセンター
日時	2022年10月31日午後2時～午後3時半
対応者	ゼネラルマネージャー 福田弘美様 シニアマネージャー 黒岩真理様 みんなの大学校：引地達也
状況	良質な文化の提供をする施設としてクラシックのコンサートを中心に運営している。小ホールでオーケストラの演奏が出来ないために小規模の編成を中心に企画している。 <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者に対する企画や対応がそれは説明として成り立つかがポイント ・愛知県立岡崎特別支援学校の高等部2年生6名（車椅子5名）の見学を対応 ・隣接するハローワークの使い方も含めての見学 ・舞台上上がってもらい音楽家の方から直接音楽を聴いてもらった
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・自治体に対する説明として良質な文化の提供の筋道の中で成り立つか ・岡崎市の施設であるために優先的には市民になる ・イベントなどでつながりを持つことは十分に考えられる ・必要なことであることは十分に理解しているため、何かをやる必要がある ・スタッフの教育にもなり、それがきっかけになる

備考	
場所	大阪市：大阪市公会堂
日時	2022年11月10日午後2時～午後3時半
対応者	館長 西村邦彦様 みんなの大学校：引地達也
状況	文化財でもある公会堂の貸館部分の運営を指定管理 利用に向けての営業も一部あるが、具体的にはこれから サービスの質を高めるために、教育を行い始めたところである クレーマーへの対応もあるが館長が引き受けることにしている 大阪の独特のコミュニケーションでやりとりされている
課題	・スタッフの教育 ・新しい業務に向けては調整が必要 ・貸館としての役割でどこまでできるか ・男女共同参画センターはまったくの受付でできることは少ない ・大きな考え方で理解できているが、新しいものを受け入れられるか
備考	

5-5 事業4 総括

全国のホール、美術館、各種社会教育施設を自治体（一部は企業）から指定管理者として運営する SPS 社と研究会やヒアリングを重ねることで、本事業は障がい者の学びの場の舞台とされる施設の活性化に向けて同社の運営に関するホスピタリティやサービス精神は今後取り入れて普遍化しながら発展させる内容であることを確認した。

これは「水と生きる」を理念としたサントリーという企業が醸成したよき文化でもあり、この視点は社会で障害者の学びを推進する立場にも大いに役立つ考えであり、本事業は研究会とヒアリングでまだ緒に就いたばかりであるが、議論と研究を重ねることで全国の社会教育施設の活性に必ず役立つアウトプットを発出できると考える。

一方で指定管理という仕組みについては、自治体の公的予算の中で運営することや仕様書に則り活動することが精緻に求められる中で、新しい「障がい者の場づくり」を考えるには、社会の大きな目標として異論はないものの、優先順位については各地域や施設でそれぞれ違う現実であり、それらの違いや地域事情を考慮して事業を推進する必要がある。同時に各自治体が指定管理業者とともにインクルーシブ社会に向けての有用な取組であることを共有する必要もあり、本事業では今後、自治体との的確なコミュニケーションも必要になってくると思われる。

6 連携協議会

6-1 連携協議会の構成員と実施経過

氏名	所属・役職等	備考欄
青木雅樹	サントリーパブリシティサービス株式会社	
本多美子	国分寺市本多公民館館長	
岩村通和	重度障がい者当事者家族、訪問看護ステーション「ほたる」代表	
島村隆博	前埼玉県立蓮田特別支援学校進路指導主事	
山本登志哉	発達支援研究所所長	
水越真哉	みんなの大学校学生委員長、当事者	

実施経過

月	実施内容
4月	連携協議会委員任命に向けての事前協議（方向性、役割の確認） 一部連携協議会委員はオンライン講義への参加、視聴 コーディネーターと個別に意見交換
5月	連携協議会委員任命に向けての事前協議（方向性、役割の確認） 一部連携協議会委員はオンライン講義への参加、視聴 コーディネーターと個別に意見交換
6月	29日：第1回連携協議会 一部連携協議会委員はオンライン講義への参加、視聴 コーディネーターと個別に意見交換
7月	一部連携協議会委員はオンライン講義への参加、視聴 コーディネーターと個別に意見交換
8月	一部連携協議会委員はオープンキャンパスに出席 コーディネーターと個別に意見交換
9月	コーディネーターと個別に意見交換
10月	一部連携協議会委員はオンライン講義への参加、視聴 コーディネーターと個別に意見交換
11月	一部連携協議会委員はオンライン講義への参加、視聴 コーディネーターと個別に意見交換
12月	16日：第2回連携協議会 一部連携協議会委員はオンライン講義への参加、視聴 本多公民館のくぬぎ学級で交流 コーディネーターと個別に意見交換
1月	一部連携協議会委員はオンライン講義への参加、視聴 一部連携協議会委員はオープンキャンパス・コンサートに参加

	コーディネーターと個別に意見交換
2月	22日：第3回連携協議会 一部連携協議会委員はオンライン講義への参加、視聴 コーディネーターと個別に意見交換
3月	コーディネーターと個別に意見交換

6-2 具体的な研究内容

連携協議会の委員は、これまで毎年、連携協議会の開催を重ね、得られた知見を基本に必要な領域から人選した。当初は自治体の福祉領域の委員を加える予定であったが、予定者が業務の多忙さから辞退され、その後人選できなかった点は当初計画と違うことになった。

連携協議会では、それぞれの専門領域、活動領域の方々が自由に意見を言える環境を整えることを必須としており、事業のすべてにおいて情報提供や参加を促進した。

以下各項目において本事業の連携協議会の取組と検討結果を示したい。

【連携協議会の回数】

年4回を基本とする計画であったが、重度障がい者が企画する内容が多岐にわたる業務になったことや、SPS社との研究会の日程調整等により開催は3回になった。しかしながら、委員のすべてが事業への参加等、積極的な関りを持っていただいたことにより議論や検討がより活発化した。

【連携協議会の議題】

- ・事業全体や各活動の方向性の確認
- ・課題の抽出と解決に向けた取組
- ・社会における障害者の学びの展開に向けての活動
- ・講義・活動・協議の評価

【各委員の役割】

氏名	役割
山本登志哉	発達心理学が専門であり、大学教員での経験を経て、障害者の学びに関しても研究を行っている。みんなの大学校では実際にウェブでの講座を担当していただいております、オンラインでの要支援者の学びや専門領域からの各種意見をいただいた。
本多美子	委託団体の拠点自治体の生涯学習を行う拠点の責任者として、国分寺市が半世紀にもわたって実践している「くぬぎ学級」との連携も視野に自治体としての考えを提示して、市民と自治体が学び合う環境整備を行っていただいた。
青木雅樹	サントリーパブリシティサービス社が全国規模で指定管理事業を行う

	担当課長。事業4においては特に連携先として場づくりの研究を施設や施設管理、スタッフへの啓もうの観点から検討した。
島村隆博	2022年3月まで埼玉県立蓮田特別支援学校の進路指導主事を務めおり、本事業においても4年前からオープンキャンパスに参加し、病棟学生との活動を模索するなど「学び」への対応を活発に行ってきた経験を基本に当別支援学校教員の立場から卒業生が社会で学ぶための絶え間ない環境整備を視野にご助言いただいた。
水越真哉	長年の引きこもりや就労につけないなどの状況から学びによって人生が開いてきているという実感を持つ当事者として学びによる人生が変わった実感をお知らせしながら、当事者は学びに何を求めているかと示していただいた。
岩村通和	重度障がい者でみんなの大学校で学ぶ岩村和斗さんの父親であり、訪問看護ステーション「ほたる」を運営する福祉事業者である。和斗さんが発話が出来ないことから、本人の意見を代弁してもらいながら、福祉事業者としての立場からの見解を示しいただき、特に重度障がい者の実践研究でのオープンキャンパスやコンサートでは実施者としても活動していただいた。

連携協議会委員はそれぞれの立場からの視点で本事業全体を見てもらいながら、同時に実践に関わる中で細部に対しての助言なども積極的に行っていき、事業全体の成果を上げて、一つひとつの質を高めていく予定である。各委員の専門性から考える役割は以下である。

【メンバー構成】

連携協議会は、専門家、教育関係者、当事者、当事者家族、福祉事業者から構成され、それぞれの立場から検討・討議しより良い運営をサポートいただいた。

【基本的な連携協議会の流れ】

開催のお知らせ・協議内容の事前告知→開催、協議→記録・報告、協議内容は事後活動に反映→開催内容・開発プログラムの向上

【連携協議会の役割】

本事業のより高い成果に向けて、教育プログラムの内容だけではなく、地域連携の在り方や講師・スタッフ・サブティーチャー、ボランティアなどの動き方、連携の在り方をそれぞれの領域の立場と知見から検討し、他地域でも展開可能とし、なおかつ教育的内容の優れた効果的なプログラム開発を確実にする役割を担った。

【議論を事業に反映させるための取組】

連携協議会が事業実施に積極的に関わり、議論の内容を事業推進に生かすサイクルを確実にするために、議論の見える化、課題の抽出、フィードバックの報告を「業務フロ

一」とした。

・連携協議会の議論の反映に向けたフロー

1 連携協議会→議事録作成及び問題や課題の抽出を全委員に開示

(連携協議会の中で課題を口頭で確認する)

2 開示された課題に対するの行動→課題に対するの行動を明確にテキスト化し報告(フィードバック報告)

3 連携協議会でフィードバック報告を口頭で行う

【議論の内容】

■第1回連携協議会

場所：Zoom開催

日時：2022年6月29日(水)午後4時—午後5時30分

議題：2022年度事業説明と検討 議事・進行 引地達也

会次第

- 1 はじめに 引地達也(本事業コーディネーター)
- 2 自己紹介 各自
- 3 事業説明
- 4 検討
- 5 事務連絡及び手続

※議事録全量は参考資料1

■第2回連携協議会

場所：国分寺市本多公民館からZoom開催

日時：2022年12月16日(金)午後5時—午後6時30分

議題：2022年度事業進捗状況の説明及び検討 議事・進行 引地達也

会次第

- 1 はじめに 引地達也(本事業コーディネーター)
- 2 事業の進捗説明
 - ・重度障がい者向け講義-「おんがくでつながる」の実践
 - ・遠隔講義-「メディア論」の展開
 - ・指定管理業者との研究開発-ヒアリングと研究会の開催
 - ・当事者との企画と実践-オープンキャンパスの開催
- 3 検討
- 4 今後の予定

※議事録全量は参考資料2

■第3回連携協議会（兼最終報告会）

場所：国分寺市本多公民館及びオンライン（ズーム）開催

日時：2023年2月22日（水）午後2時—午後4時

議題：2022年度事業の最終報告 議事・進行 引地達也

会次第

- 1 はじめに 引地達也（本事業コーディネーター）
- 2 事業の最終報告
 - ・ 重度障がい者向け講義-「おんがくでつながる」の実践
 - ・ 遠隔講義-「メディア論」の展開
 - ・ 指定管理業者との研究開発-ヒアリングと研究会の開催
 - ・ 当事者との企画と実践-オープンキャンパスの開催

3 協議

4 次年度に向けて

※議事録全量は参考資料3

6-3 効果的な実施体制・連携体制

連携協議会はコロナ禍の影響によりオンラインとのハイブリット開催を余儀なくされ、対面でコミュニケーションを1度でも行うことで、より議論も交差すると思われたが、本年度もそうはならなかった。しかしながら、コーディネーターがオフライン・オンラインで適宜コミュニケーションを取ったことにより、親密性が高まると同時に今後に向けた検討も活発になり、前年度よりも発展したコミュニケーションが成り立ったと考えている。

体制としては当初予定の自治体の福祉領域のメンバーが確保できなかったことは反省点であるが、教育部門、福祉部門、保護者、当事者、研究者、企業担当者、教育委員会から選任しバランスのよい構成となった。連携協議会が3回開催されているがオンラインの参加が多かったことから、委員どうしの活発な交流が出来なかったのが反省点である。この点を踏まえ効果的な実施体制と連携体制は以下と考える。

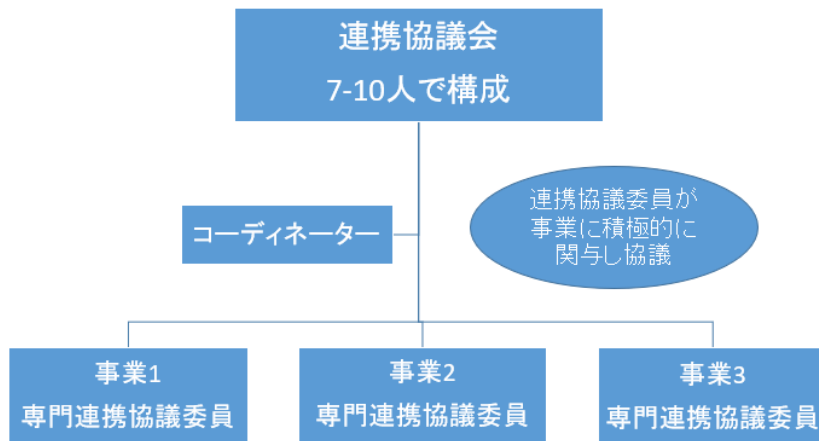
実施体制メンバー構成案

- ・ 特別支援学校関係者（本事業では元蓮田特別支援学校進路指導主事）
- ・ 公的な社会教育施設関係者（本事業では本多公民館館長）
- ・ 福祉サービス関係者（本事業では訪問介護事業者）
- ・ 研究者（本事業では発達支援研究所長）
- ・ 当事者（本事業ではみんなの大学校学生）
- ・ 家族（本事業では重度障がい者の父親）※福祉サービス関係者と兼務
- ・ 福祉サービス関係者（本事業ではない通所系サービス関係者）
- ・ 自治体職員（障害福祉もしくは企画領域）

■連携体制とモデル

上記のメンバーが活発に議論し、実際の事業に関わってもらうために、事業参加を促す。事業内容によっては、担当の委員を決めてその委員を中心にした同心円的な議論により効果的なアウトプットが創出できると考えられる。

さらに連携協議会だけではなく、各事業にも研究会を設置し、それぞれの委員が中心となり事業を評議しながら連携協議会での議論を経て研究成果として精査していく手法も考えられる。連携体制モデルは以下である。



これらの体制のもとで連携協議会委員が積極的に事業や議論に関与することで、障害者の生涯学習の広報機能も備わってくると思われ、関係者の参加を促し、事業と地域社会や専門家領域との交流が生まれることが期待される。発出されるアウトプットから生まれるつながりと社会参加をデータ化し、そのデータをもとにした事業も創出できると考える。

上記は本事業における連携協議会の在り方に関する考察であり、連携協議会の議論の中で出された意見の集約は以下である。

氏名	意見
山本登志哉	本事業ではないが、実際にオンラインで当事者向けの講義をやる中で「話し合う」という重要性を認識しながら講義をしており、今回のオンライン講義での難しさを指摘しながら、障害特性に応じた場の提供が必要との認識。すべての事業において、本事業の学びは「生きる」につながる根本的な形を提示しており、高く評価されるものであろう。
本多美子	国分寺市のくぬぎ学級では、みんなの大学校の学びのノウハウをもとに交流を行い、特に音楽を通じた学びの提供では参加者が楽しんでいる様子が見られた。
青木雅樹	SPS社が全国で管理運営する中でインクルーシブ&ダイバーシティの中で確実に必要な分野として会社としても捉え、今回の議論も非常に貴重

	な機会だった。ガイドラインを進めていきたい。
島村隆博	埼玉県立蓮田特別支援学校を定年になり自由になれると思ったが、時間の捻出はなかなか難しい。特別支援学校の教員も時間の確保が難しく、学びの展開をするには特別支援学校側の今後の理解、また重度障がい者へは保護者や病棟の協力も必要であろう。
水越真哉	すべての事業はバランスよく行われていた。自分が知識を得ることでの怖さもあるので、それをケアしてもらいながら進めるのはうれしい。
岩村通和	重度障がい者はこれまで与えられるものをやってきて、それに混ぜてもらおうような格好だったのが今回は自分たちが企画をしてコンサートまでできたのが嬉しい。本人もそう思っている。今後も継続したい。

【連携協議会総括】

第三回の連携協議会は最終報告会を兼ね、連携協議会委員のほか関係する方々がそれぞれの立場から発言し、全体を総括して連携協議会委員の山本登志哉・発達支援研究所所長はすべての事業が「生きることに繋がるもの」との表現で、これらの取組を評価した。実際にオンライン講義に参加している重度障がいのKHさんは、一緒に参加する家族が「講座が楽しみで1週間過ごしている」と発言した。当事者が楽しく参加する、学びの日が待ち遠しくなる日々を過ごすこと、その喜びと触れ合うこと。それを目に見えるものとして受け取れた講義が出来たことは大きな成果である。

重度障がい者が企画してオープンキャンパスを実施し、最終的にコンサートで自分たちの作った曲を披露した事業では、企画委員として参加した重度障がい当事者の父親でもある連携協議会委員の岩村通和さんは「これまで特別支援教育の中で提供される一方だった。何かをするときも混ぜてもらおうような格好が多かった。それが、今回は自分たちが考え実行するということで新しい可能性が見つかった」と話した。社会・支援者が重度障がい者に何かを「施す」というベクトルから、当事者が社会に発案するベクトルは水平型のコミュニケーションで展開される条件であり、水平型であることはどちらかに比重かかることなく、過多もないからストレスが少なくなる。講師や演者にとっても、そのコミュニケーションで成り立つ学びは、大きな効果を得るはずで、報告会では「音楽でつながろう」講義の講師を勤めた歌手の奈月れいさんも「大きな力をもらっている」と発言した。このベクトルの転換は、講師側に学びの覚醒も促したといえる。

【検討すべき課題】

上記のようにバランスのよい人選と効果的なコミュニケーション体制の設定により、連携協議会はただ単に議論する場ではなく、実際にまざり合いながら、そのプロセスで発信し社会とつながっていくことが可能である。そのための発信媒体の有無等の要件整理が必要となってくる。

7 コーディネーターの活動やボランティアの育成・活用等の方策

7-1 コーディネーターの配置

氏名	所属・役職等	備考欄
引地達也	一般社団法人みんなの大学校代表理事・学長	

コーディネーターは、障害者や特別支援学校の卒業生を対象にした学びの場であるみんなの大学校の学長である。その前身のシャローム大学校学長として、また障害者向けの就労移行支援事業「シャローム所沢」「シャローム和光」「シャローム浦和」、障害者向け人材紹介事業所「シャローム日本橋」、障害者雇用を推進する「障がい者雇用推進センター」を統括する立場である。これらの組織を束ねる一般財団法人福祉教育支援協会の上席研究員の立場で2018-2020年、本事業である文部科学省「障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」のコーディネーターとして中心的役割を担ってきた。また2019—2021年度の「共生社会コンファレンス関東甲信越ブロック」の主催者として運営し、すべての企画に携わり、進行やシンポジウムに登壇した。コンファレンスの東北ブロックでは実践授業を披露。さらに文部科学省2018年度から3年間「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」委託を受け、実施委員会委員長も務め、養成事業にかかる各種教材、PBLガイドライン、ケーススタディ報告書を作成している。

これらの経験をベースにして本事業も中心的な役割を担いながら参加者が充実した学びを得られるよう、当事者とのコミュニケーションをはじめ連携協議会の委員と適宜話をし、自らもインターネットメディアで本事業の活動実態や障がい者の生涯学習の全国的な取組を紹介し、関係機関とも協働し、調整をしながら本事業を推進した。

7-2 実施経過

4月	内部折衝 事業の計画説明等 <ul style="list-style-type: none"> ・引地がレインボータウンFM出演「障がい者の生涯学習について」 ・就労継続支援B型事業所みんなの大学校大田校＝東京都大田区 ・就労継続支援AB型事業所SBワークス石岡＝茨城県石岡市 ・就労移行支援事業所ライトハウス春日部＝埼玉県春日部市 ・就労移行支援事業所ライトハウス大宮＝埼玉県さいたま市 ・生活介護事業所シャローム上井草さくら＝東京都杉並区 ・自立訓練事業所KINGOカレッジ＝新潟市 ・就労移行支援事業所コミュニケーションカレッジ＝長野県松本市 ・自立訓練事業所ユニバやまなし＝山梨県笛吹市 ・就労移行支援事業所アクセスジョブ清澄白河＝東京都江東区 重度障害者向けオンライン音楽プログラム（事業1） <ul style="list-style-type: none"> ・スケジュール/講師/参加者に関する協議開始
----	--

	<p>重度障害者が企画する学びのプログラムの実践（事業2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画委員のメンバー・介助者との協議開始 <p>オンラインでの学びの場づくりの展開（事業3）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加施設等とのプログラム内容に関する協議と実践 <p>インクルーシブな学びの場づくり研究と展開（事業4）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究会の内容と方向性、抽出する施設等の協議開始 <p>インターネットコラム配信 20日、27日</p>
5月	<p>事業開始</p> <p>事業の説明等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就労移行支援事業所ライトハウス春日部＝埼玉県春日部市 ・港区障害者支援ホーム南麻布＝東京都港区 <p>重度障害者向けオンライン音楽プログラムの講義開始＝ファシリテーター（事業1）</p> <p>5月10日、17日、24日、31日</p> <p>オンラインでの学びの場づくり展開の講義「メディア論」開始＝講師（事業3）</p> <p>5月12日、19日、26日</p> <p>インターネットコラム配信 15、29日</p>
6月	<p>第1回連携協議会（29日）</p> <p>事業の説明等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大田区引きこもりサポートセンター＝大田区 ・港区障害者支援ホーム南麻布＝東京都港区 ・さいたま心の健康センター＝さいたま市 ・上智大学（サリー・アンガースティン副学長）＝千代田区 ・みんなの大学校周辺関係者＝埼玉県狭山市 <p>重度障害者が企画する学びのプログラムの実践の企画委員会（事業2）11日</p> <p>重度障害者向けオンライン音楽プログラム＝ファシリテーター（事業1）</p> <p>6月7日、14日、21日、28日</p> <p>オンラインでの学びの場づくり展開の講義「メディア論」講師（事業3）</p> <p>6月2日、9日、16日、23日、30日</p> <p>インターネットコラム配信 20日、27日</p>
7月	<p>事業の説明等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大田区引きこもりサポートセンター＝大田区 <p>港区障害者支援ホーム南麻布＝東京都港区</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さいたま心の健康センター＝さいたま市

	<ul style="list-style-type: none"> ・上智大学（サリー・アンガースティン副学長）＝千代田区 ・みんなの大学校周辺関係者＝埼玉県狭山市 <p>重度障害者向けオンライン音楽プログラム＝ファシリテーター（事業1） 7月5日、12日、19日、26日</p> <p>オンラインでの学びの場づくり展開の講義「メディア論」講師（事業3） 7月7日、14日、21日、28日</p> <p>インターネットコラム配信 20日、27日</p>
8月	<p>第1回インクルーシブな学びの場づくり研究会（事業4）8月2日</p> <p>第1回重度障害者の学習実践オープンキャンパス・重度障害者が企画する学びのプログラムの実践（事業2）8月27日</p> <p>インターネットコラム配信 10日、17日、31日</p>
9月	<p>事業説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・埼玉県岩槻市 HA さん（特別支援学校卒業1年目—在宅療養） ・大田区引きこもりサポートセンター＝大田区 ・就労移行支援事業所ライトハウス大宮及び春日部の関係者＝埼玉県さいたま市 ・本多公民館関係者＝国分寺市 <p>インクルーシブな学びの場づくり研究会に関する協議（事業4）9月21日</p> <p>インターネットコラム配信 21日</p>
10月	<p>事業説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本多公民館関係者＝国分寺市 ・横浜市の特別支援学校進路指導担当者会議＝横浜市 ・就労移行支援事業所ライトハウス大宮及び春日部の関係者＝埼玉県さいたま市 ・福祉事業型ユニバやまなし＝山梨県笛吹市 ・見晴台学園大学＝名古屋市 <p>国分寺市くぬぎ学級との協議（関連する活動）10月5日</p> <p>第2回重度障害者の学習実践オープンキャンパス・重度障害者が企画する学びのプログラムの実践（事業2）10月8日</p> <p>重度障害者向けオンライン音楽プログラム＝ファシリテーター（事業1） 10月4日、11日、18日、25日</p> <p>オンラインでの学びの場づくりの展開の講義「メディア論」講師（事業3） 10月6日、13日、20日、27日</p> <p>ユニバやまなしに訪問しオフライン交流（10月19日）</p> <p>見晴台学園大学に訪問しオフライン交流（10月31日）</p> <p>インクルーシブな学びの場づくり研究会に関する施設ヒアリング（事業</p>

	<p>4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大和文化芸術ホール（10月11日） ・山梨県立美術館（10月19日） ・岡崎市シビックセンター（10月31日） <p>インターネットコラム配信 12日、19日、26日</p>
11月	<p>事業説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国専攻科（特別ニーズ教育）研究会メンバー＝大阪市 ・就労移行支援事業所ライトハウス大宮及び春日部の関係者＝埼玉県さいたま市 ・埼玉県重症心身障碍児者の会＝さいたま市 <p>重度障害者向けオンライン音楽プログラム＝ファシリテーター（事業1） 11月1日、8日、15日、22日、29日</p> <p>オンラインでの学びの場づくりの展開の講義「メディア論」講師（事業3） 11月10日、17日、24日</p> <p>インクルーシブな学びの場づくり研究会に関する施設ヒアリング（事業4）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪市公会堂（11月10日） <p>超福祉展のシンポジウムのパネリスト参加（関連する事業）11月5日</p> <p>インターネットコラム配信 9日、16日、23日、30日</p>
12月	<p>事業説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長野県教育委員会、長野県福祉保健部-NPO 法人ロミロミドットコム（長野県松本市）の事業支援 19日 ・全国専攻科（特別ニーズ教育）研究会メンバー＝大阪市 ・就労移行支援事業所ライトハウス大宮及び春日部の関係者＝埼玉県さいたま市 ・杉並区教育委員会＝杉並区 ・大田区引きこもりサポートセンター＝大田区 ・埼玉県東松山 TK さん（特別支援学校高等部3年生一在宅） <p>第2回連携協議会（16日）</p> <p>重度障害者向けオンライン音楽プログラム＝ファシリテーター（事業1） 12月6日、13日、20日</p> <p>オンラインでの学びの場づくりの展開の講義「メディア論」講師（事業3） 12月1日、8日、15日、22日</p> <p>第2回インクルーシブな学びの場づくり研究会（事業4）12月6日</p> <p>国分寺市くぬぎ学級のクリスマス企画実践（関連する活動）12月4日</p> <p>千葉県教育委員会主催の公民館担当者向け講演実施（関連する活動）12月</p>

	<p>8日 インターネットコラム配信 14日、21日</p>
1月	<p>事業説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国専攻科（特別ニーズ教育）研究会メンバー＝大阪市 ・就労移行支援事業所ライトハウス大宮及び春日部の関係者＝埼玉県さいたま市 <p>第3回重度障害者の学習実践オープンキャンパス・重度障害者が企画する学びのプログラムの実践「みんなのおもいを『うた』にしようコンサート」（事業2）1月22日</p> <p>重度障害者向けオンライン音楽プログラム＝ファシリテーター（事業1）1月10日、17日、24日</p> <p>オンラインでの学びの場づくりの展開の講義「メディア論」講師（事業3）1月12日、19日、26日</p> <p>インクルーシブな学びの場づくり研究会に関する協議（事業4）1月26日</p> <p>インターネットコラム配信 4日、11日、25日</p>
2月	<p>事業説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新潟市HKさん（特別支援学校高等部卒業1年目—在宅） ・杉並区教育委員会社会教育センター＝杉並区 ・就労移行支援事業所ライトハウス大宮及び春日部の関係者＝埼玉県さいたま市 ・福祉事業型専攻科 KINGO カレッジ＝新潟市 ・MKLAB 南草津及び草津コミュニティ事業団、就労継続支援B型事業所愛コラボレーション＝滋賀県草津市 ・田園調布特別支援学校PTA会＝大田区 ・本吉絆つながりたい＝宮城県気仙沼市 <p>オンラインでの学びの場づくりの展開の講義「メディア論」講師（事業3）2月2日</p> <p>KINGO カレッジに訪問しオフライン交流（2月16日）</p> <p>重度障害者が企画する学びのプログラムの実践（事業2）新潟の参加者訪問し交流（2月16日）</p> <p>第3回インクルーシブな学びの場づくり研究会＝司会取りまとめ（事業4）2月14日</p> <p>重度障害者の学習実践の検討会（事業2）適宜、当事者の自宅を訪問</p> <p>第3回連携協議会及び最終報告会（2月22日）</p> <p>インターネットコラム配信 28日</p>
3月	<p>最終報告書提出</p>

7-3 具体的な内容

・コーディネーター配置とボランティア活用

本事業のコーディネーターは2018年度から本委託研究から5年間、継続的に関わってきており、これまでの経験の中で以下の点が重要であると指摘してきた。

・地域で学びを推進するには地域資源に精通していることが重要であり、なおかつそれらの資源を縦横に対応できる質が求められる。それが地域での学びの中心的な役割を担っていく。

・個人の資質に頼りすぎてしまうと、いつかは担い手不足に陥ることから、地域でチームとして機能させるスキルも必須である

・多くの事業は予算が限られる中での運用になるため、予算管理も重要であり、チームの中には予算管理の部門とカリキュラムの運営とを分けて実施するのが理想的である

上記の点に注意しながら本事業を行ってきたものの、みんなの大学校の法人としては就労継続支援B型事業等、福祉サービスとして支援を行う業務も担っている関係で、本事業への対応が潤沢に行えない状況であった。そのために、コーディネーターに関わる負担が大きくなり、結果的にチーム化することは道半ばの状況である。今後はコーディネーターに「サブコーディネーター」を付けるなどで地域で活躍できる人材を育成する必要を考えている。

本件のボランティア活用に関しても、これまでの事業からの継続で毎年関わってくれの方が適切に運営に携わってくれたことで、オンライン講義等がスムーズに行えたことは非常に大きい。本事業のボランティアは引きこもりの当事者や精神疾患のある方々であったが、毎年の業務を担ったことで精神的にも安定に向かっていることも確認された。

また、重度障がい者に対するボランティアについては、たんの吸引等の対応が必要な点でプロフェSSIONALである必要性が語られがちであるが、「学び」の支援には多くの関係者が必要であり、それらは「プロ」である必要はなく、ケアをコミュニケーションに転換できる見識が必要と考えるが、今回はコンサート開催で数人の新しい関わりが見られたが、日常的な活動に関与するまでには至っていない。今後はその仕組みを作るのが必須である。

この育成においては重度障がい者のコミュニケーションツールの発展を踏まえ、さらに本事業はウェブを使つての講義を展開していることから、メディアリテラシーの向上も必要である。

【どのような専門性を有する者がコーディネーター・指導者の役割に適しているか】

企画提案書においては以下の点を仮説として提示した。

- ・福祉の仕組みをよく知っていること
- ・教育の可能性を高く評価していること
- ・社会の仕組みを知っていること

この上で各種障がいのある人と円滑なコミュニケーションが出来ること、障がいのある人にストレスを与えるコミュニケーションを取らない、障がい者から信頼を得られるコミュニケーションが前提とした。これはコーディネーターの基本条件と抑えつつ、本事業では指定管理業者との研究で抽出したガイドライン素案が、コーディネーターが学ぶべきポイントとしても援用できると思われる。前述した5項目は以下である（詳細は同項目参照）。

- 1 インクルーシブな「学び」の可能性を視野に置いた運営を行う
- 2 障がいへの理解促進を実証的に進める
- 3 オープンな施設・イベントを企画する
- 4 地域に根差した障がい者への適切なアプローチを検証する
- 5 民間企業の役割を検討し関係機関及び専門家と連携しながらダイバーシティ社会の場づくりを探究する

これらの理解と具体的な行動のイメージを持つことがコーディネーターとして最適な役割を果たせることを保証するものとして有効であろう。今後のガイドライン作成は今後のコーディネーター育成にもつながることを意識して進めていきたい。

【具体的な活動】

日本において障がい者の生涯学習はまだ社会に浸透していないことから、行政機関はじめ地域に本教育の必要性を説明する責任を持つことからコーディネーターは高いコミュニケーション能力が必要である。活動する地域で親和的に「一緒に」やっていくことでインクルーシブを実現する力も試される。

このことから、前述のガイドラインをもとに小さなイベントを地域の実情に合わせて地域とともに開催するところから、障がい者の生涯学習は展開できると思われ、その第一歩を踏み出すための後押しをする必要があるであろう。

【普及のために執筆・発信した記事】

今回のコーディネーターはインターネットメールマガジン「まぐまぐ」における「ジャーナリスティックなやさしい未来」を中心に各サイトでのコラムを展開しており、遠くの方とのつながりはこのメルマガが起点となった。本年の発信は以下、このメルマガを基点にインターネットのコラムサイト「ニュース屋台村」や各種コラムサイトにも引用され、1回に付き閲覧数は100～1000と幅が大きい。以下がタイトル一覧である。

4月20日

「交わり」で花開く、重度障がい者向けの音楽プログラム

4月27日

メディア「発信」で当事者と社会とをつなぐ

5月18日

「おんがくのじかん」の「重症心身障害」の反応を社会で共有する
6月15日
新しい「学び」を重度障がい者の企画委員に期待して
6月29日
オープンキャンパスでつくる「うた」が面白そう
8月10日
サントリーと「社会教育施設」をインクルーシブな場とするために
8月17日
「インクルーシブな学び」での学生と共に積み重ねる経験の重み
8月31日
重度障がいの「学び」で紡ぐ歌のことばの純粹さ
9月21日
障がい者の権利を侵す社会に出された勧告を受け止める
10月12日
重度障がい者の「ことば」への気付きと楽しい共同作業
10月19日
図書館が作る町から生まれる「学び」に期待
10月26日
調理メニューの豊富さ、完璧な味が「学び」の証し
11月9日
「超福祉」に集う気負いない実践者のひとりとして
11月16日
障がい者の学びとJリーグという掛け合わせ
11月23日
重度障がい者の学びを模索する日々に
11月30日
重度障がい者のコミュニケーション機器と人は切り離せない
12月14日
障がい者の生涯学習を担う人たちへのスイッチオン
12月21日
表現の自由を原点とするインクルーシブの学び
1月4日
重度障がいの学生からの「勇気はありますか？」の問いかけ
1月11日
地球環境とコミュニケーションをつなげるZ世代の重度障がい者
1月25日

「はっぴーそんぐ」を共有することで生まれるハッピーを感じて

2月28日

「生きる」ことにつながる生涯学習という視点

8 実践研究の成果等の普及

8-1 実施経過

4月	<p>■事業計画に関する説明及びレクチャー</p> <p>引地がレインボータウンFM出演「障がい者の生涯学習について」 就労継続支援B型事業所みんなの大学校大田校＝東京都大田区 就労継続支援AB型事業所SBワークス石岡＝茨城県石岡市 就労移行支援事業所ライトハウス春日部＝埼玉県春日部市 就労移行支援事業所ライトハウス大宮＝埼玉県さいたま市 生活介護事業所シャローム上井草さくら＝東京都杉並区 自立訓練事業所KINGOカレッジ＝新潟市 就労移行支援事業所コミュニケーションカレッジ＝長野県松本市 自立訓練事業所ユニバやまなし＝山梨県笛吹市 就労移行支援事業所アクセスジョブ清澄白河＝東京都江東区</p> <p>■事業前のオンライン講義の提供</p> <p>「メディア論」14日、21日、28日→オンタイム講義→アーカイブ 「音楽でつながろう」12日、19日、26日→オンタイム講義→アーカイブ 毎週木曜日夕方に上記の案内等を関係者にメール配信</p> <p>■コラム配信</p> <p>「交わり」で花開く、重度障がい者向けの音楽プログラム（4月20日） メディア「発信」で当事者と社会とをつなぐ（4月27日）</p>
5月	<p>■事業計画に関する説明及びレクチャー</p> <p>就労移行支援事業所ライトハウス春日部＝埼玉県春日部市 港区障害者支援ホーム南麻布＝東京都港区</p> <p>■事業前のオンライン講義の提供</p> <p>「メディア論」12日、19日、26日→オンタイム講義→アーカイブ 「音楽でつながろう」10日、17日、24日、31日→オンタイム講義→アーカイブ 毎週木曜日夕方に上記の案内等を関係者にメール配信 コラム執筆 コラム配信 「おんがくのじかん」の「重症心身障害」の反応を社会で共有する（5月18日）</p>

6月	<p>成果普及のサイトの立ち上げ「ケアメディア」</p> <p>■企画委員会（11日）のお知らせと実施</p> <p>事業2の企画委員会のお知らせを杉並区中心に周知活動（郵送やメール等）</p> <p>同企画委員会の実施報告をみんなの大学校のホームページに掲載</p> <p>■事業に関する説明及びレクチャー</p> <p>大田区引きこもりサポートセンター＝大田区</p> <p>港区障害者支援ホーム南麻布＝東京都港区</p> <p>さいたま心の健康センター＝さいたま市</p> <p>上智大学（サリー・アングースティン副学長）＝千代田区</p> <p>みんなの大学校周辺関係者＝埼玉県狭山市</p> <p>■オンライン講義の提供</p> <p>「メディア論」2日、9日、16日、23日、30日→オンタイム講義→アーカイブ</p> <p>「音楽でつながろう」7日、14日、21日、28日→オンタイム講義→アーカイブ</p> <p>毎週木曜日夕方に上記の案内等を関係者にメール配信コラム執筆 コラム配信</p> <p>新しい「学び」を重度障がい者の企画委員に期待して（6月15日）</p> <p>オープンキャンパスでつくる「うた」が面白そう（6月29日）</p>
7月	<p>■オープンキャンパス（27日）のお知らせ</p> <p>事業2の第2回オープンキャンパスのお知らせを杉並区中心に周知活動（郵送やメール等）</p> <p>■事業に関する説明及びレクチャー</p> <p>就労移行支援事業所ライトハウス春日部の関係者＝埼玉県春日部市</p> <p>■オンライン講義の提供</p> <p>「メディア論」7日、14日、21日、28日→オンタイム講義→アーカイブ</p> <p>「音楽でつながろう」5日、12日、19日、26日→オンタイム講義→アーカイブ</p> <p>毎週木曜日夕方に上記の案内等を関係者にメール配信</p>
8月	<p>■オープンキャンパス（27日）のお知らせと実施</p> <p>事業2の第1回オープンキャンパスのお知らせを杉並区中心に周知活動（郵送やメール等）、実施報告をみんなの大学校ホームページやケアメディアで掲載</p> <p>■SPS社との第一回研究会</p> <p>研究会の内容を以下のコラムで配信</p>

	<p>■地域への障害者の生涯学習に関する説明 長野県教育委員会、長野県福祉保健部-NPO 法人ロミロミドットコム（長野県松本市）の事業支援 25日 コラム配信 サントリーと「社会教育施設」をインクルーシブな場とするために（8月10日） 「インクルーシブな学び」での学生と共に積み重ねる経験の重み（8月17日） 重度障がいの「学び」で紡ぐ歌のことばの純粹さ（8月31日）</p>
9月	<p>■オープンキャンパス(8日)のお知らせ 事業2の第2回オープンキャンパスのお知らせを杉並区中心に周知活動(郵送やメール等) ■重度障がい者向けに自宅で事業説明 埼玉県岩槻市 HAさん(特別支援学校卒業1年目—在宅療養) ■事業に関する説明及びレクチャー 大田区引きこもりサポートセンター＝大田区 就労移行支援事業所ライトハウス大宮及び春日部の関係者＝埼玉県さいたま市 本多公民館関係者＝国分寺市 コラム配信 障がいの権利を侵す社会に出された勧告を受け止める(9月21日)</p>
10月	<p>■オープンキャンパス(8日)の実施 事業2の第2回オープンキャンパスの実施報告をみんなの大学ホームページ及びケアメディアサイトに掲載 ■事業に関する説明及びレクチャー 本多公民館関係者＝国分寺市 横浜市の特別支援学校進路指導担当者会議＝横浜市 就労移行支援事業所ライトハウス大宮及び春日部の関係者＝埼玉県さいたま市 福祉事業型ユニバやまなし＝山梨県笛吹市 見晴台学園大学＝名古屋市 ■オンライン講義の提供 「メディア論」6日、13日、20日、27日→オンタイム講義→アーカイブ 「音楽でつながろう」4日、11日、18日、25日→オンタイム講義→アーカイブ 毎週木曜日夕方に上記の案内等を関係者にメール配信コラム配信 重度障がいの「ことば」への気付きと楽しい共同作業(10月12日)</p>

	<p>図書館が作る町から生まれる「学び」に期待(10月19日) 調理メニューの豊富さ、完璧な味が「学び」の証し(10月26日)</p>
11月	<p>■オープンキャンパス(1月22日)のお知らせ 事業2の第3回オープンキャンパスのお知らせを全国的にお知らせ</p> <p>■重度障がい児者の生涯学習支援ネットワークー学びの実りアート&ミュージックミュージアム(パシフィコ横浜)25-27日</p> <p>■超福祉の学校シンポジウムにパネリスト参加 5日</p> <p>■事業に関する説明及びレクチャー 全国専攻科(特別ニーズ教育)研究会メンバー＝大阪市 就労移行支援事業所ライトハウス大宮及び春日部の関係者＝埼玉県さいたま市 埼玉県重症心身障碍児者の会＝さいたま市</p> <p>■オンライン講義の提供 「メディア論」10日、17日、24日→オンタイム講義→アーカイブ 「音楽でつながろう」I日、8日、15日、22日→オンタイム講義→アーカイブ 毎週木曜日夕方に上記の案内等を関係者にメール配信 コラム配信 「超福祉」に集う気負わない実践者のひとりとして(11月9日) 障がい者の学びとJリーグという掛け合わせ(11月16日) 重度障がい者の学びを模索する日々に(11月23日) 重度障がい者のコミュニケーション機器と人は切り離せない(11月30日)</p>
12月	<p>■オープンキャンパス(22日)のお知らせ 事業2の第3回オープンキャンパスのお知らせを全国的にオンライン等で周知活動</p> <p>■国分寺市くぬぎ学級イベント 4日</p> <p>■SPS社との第2回研究会</p> <p>■第2回連携協議会</p> <p>■千葉県教育委員会主催の社会教育主事向けの「障害者のショウガ学習」講座(引地)</p> <p>■事業に関する説明及びレクチャー 長野県教育委員会、長野県福祉保健部-NPO 法人ロミロミドットコム(長野県松本市)の事業支援 19日 全国専攻科(特別ニーズ教育)研究会メンバー＝大阪市 就労移行支援事業所ライトハウス大宮及び春日部の関係者＝埼玉県さいたま市 杉並区教育委員会＝杉並区</p>

	<p>大田区引きこもりサポートセンター＝大田区</p> <p>■重度障がい者向けに自宅で事業説明</p> <p>埼玉県東松山 TK さん(特別支援学校高等部 3 年生—在宅)</p> <p>■オンライン講義の提供</p> <p>「メディア論」1 日、8 日、15 日、22 日→オンタイム講義→アーカイブ</p> <p>「音楽でつながろう」6 日、13 日、20 日→オンタイム講義→アーカイブ</p> <p>毎週木曜日夕方に上記の案内等を関係者にメール配信</p> <p>コラム配信</p> <p>障がいの生涯学習を担う人たちへのスイッチオン(12 月 14 日)</p> <p>表現の自由を原点とするインクルーシブの学び(12 月 21 日)</p>
1 月	<p>■オープンキャンパス (22 日) のお知らせと実施</p> <p>事業 2 の第 3 回オープンキャンパスのお知らせを全国的にオンライン等で周知活動</p> <p>事前配信のお知らせ 13 日 →ツイキャス配信→アーカイブ</p> <p>当日コンサートの配信 22 日 →ツイキャス配信→アーカイブ</p> <p>■事業に関する説明及びレクチャー</p> <p>全国専攻科(特別ニーズ教育)研究会メンバー＝大阪市</p> <p>就労移行支援事業所ライトハウス大宮及び春日部の関係者＝埼玉県さいたま市</p> <p>■オンライン講義の提供</p> <p>「メディア論」12 日、19 日、26 日→オンタイム講義→アーカイブ</p> <p>「音楽でつながろう」10 日、17 日、24 日、31 日→オンタイム講義→アーカイブ</p> <p>毎週木曜日夕方に上記の案内等を関係者にメール配信</p> <p>コラム配信</p> <p>重度障がいの学生からの「勇気はありますか？」の問いかけ(1 月 4 日)</p> <p>地球環境とコミュニケーションをつなげる Z 世代の重度障がい者(1 月 11 日)</p> <p>「はっぴーそんぐ」を共有することで生まれるハッピーを感じて(1 月 25 日)</p>
2 月	<p>第三回連携協議会及び最終報告会 22 日</p> <p>■重度障がい者向けに自宅で事業説明</p> <p>新潟市 HK さん(特別支援学校高等部卒業 1 年目—在宅)</p> <p>■事業に関する説明及びレクチャー</p> <p>杉並区教育委員会社会教育センター＝杉並区</p> <p>就労移行支援事業所ライトハウス大宮及び春日部の関係者＝埼玉県さいたま市</p>

	<p>市 福祉事業型専攻科 KINGO カレッジ＝新潟市 MKLAB 南草津及び草津市福祉協議会＝滋賀県草津市 田園調布特別支援学校 PTA 会＝大田区 本吉絆つながりたい＝宮城県気仙沼市</p> <p>■オンライン講義の提供 「メディア論」2 日→オンタイム講義→アーカイブ 毎週木曜日夕方に上記の案内等を関係者にメール配信 コラム配信 「生きる」ことにつながる生涯学習という視点(2月28日)</p>
3月	<p>就労移行支援事業所アクセスジョブを展開する株式会社クラ・ゼミと障がい者の学びについて協議 最終成果報告書</p>

8-2 具体的な内容

コーディネーターが直接関わる形で普及活動を行った対象は以下一覧にした。本事業の背景を含めてお話し、実際に講義に参加する等で学びへの具体的な取組をイメージしてもらうことを目標にした。全体ではオンライン上で実施の案内や報告等で行ったほか、事業毎に直接的な呼びかけやダイレクトメールでの案内、コンサートにおいては関係自治体への呼びかけ、ツイキャスを使った事前配信や当日の配信、オンライン講義ではアーカイブでの視聴の案内等で実施日だけではなく、その後も本事業に触れ、アウトプットを視聴することが可能である。

■全体

- ・オンライン「ケアメディア」における発信

当事者の発信等で機能するポータルサイト「ケアメディア」において活動を随時掲載

- ・みんなの大学校ホームページで実施の報告を掲載

みんなの大学校のホームページのニュース欄において本事業で開催したオープンキャンパス等の実施報告を掲載

- ・コラムの配信

メールマガジン「まぐまぐ」

インターネットサイト「ニュース屋台村」

インターネットサイト「ジャーナリストティックなやさしい未来」

- ・説明や研修・講義による普及

以下を対象に本事業の成果を説明した。対象によっては今後の連携や障がい者の生涯学習への取組を模索することを継続して支援することなどを話し合った。備考欄の○印は参加もしくは来年度以降の参加を表明した箇所である。

対象	所在地	形態	備考
就労継続支援 B 型事業 所みんなの大学校大田 校	東京都大田区	福祉サービス	○
就労継続支援 AB 型事業 所 SB ワークス石岡	茨城県	福祉サービス	○
就労移行支援事業所ラ イトハウス春日部	埼玉県	福祉サービス	○2023 年 2 月 で閉鎖
就労移行支援事業所ラ イトハウス大宮	さいたま市	福祉サービス	○
生活介護事業所シャロ ーム上井草さくら	杉並区	福祉サービス	○
自立訓練事業所 KINGO カレッジ	新潟市	福祉サービス	○
就労移行支援事業所コ ミュニケーションカレ ッジ	長野県松本市	福祉サービス	○
自立訓練事業所ユニバ やまなし	山梨県笛吹市	福祉サービス	○
就労移行支援事業所ア クセスジョブ清澄白河	東京都江東区	福祉サービス	
大田区引きこもりサポ ートセンター	東京都大田区	自治体委託団体	○関係を模索
港区障害者支援ホーム 南麻布	東京港区	福祉サービス	○
さいたま心の健康セン ター	さいたま市	さいたま市	
上智大学	東京都千代田区	大学：サリ・アーガ スティン副学長	
本多公民館	東京都国分寺市	国分寺市	○
横浜市の特別支援学校 進路指導担当者会議	横浜市	任意の会議	○
見晴台学園大学	名古屋市	NPO 法人専攻科	○
全国専攻科（特別ニーズ 教育）研究会	大阪市	任意団体	○

埼玉県重症心身障碍児者の会	さいたま市	任意団体	
長野県教育委員会	長野市	長野県	
長野県福祉保健部	長野市	長野県	
佐久長聖中学高校	長野県佐久市	学校	
NPO 法人口ミロミドットコム（長野県松本市）	松本市	NPO 法人	本事業を検討
杉並区教育委員会	東京都杉並区	杉並区	
杉並区教育委員会社教育センター	東京都杉並区	杉並区	
MKLAB 南草津	滋賀県草津市	任意団体	○
草津市福祉協議会	滋賀県草津市	団体	
田園調布特別支援学校 PTA 会	東京都大田区	任意団体	
本吉絆つながりたい	宮城県気仙沼市	任意団体：障がい者の保護者会	○
港特別支援学校	東京都港区	学校：進路指導主事等	

8-3 各事業における普及

■事業1 「音楽でつながろう」の実施・成果に関わる普及

講義の全 30 回はアーカイブで限定 URL で視聴が可能であり、関心のある方に URL を示し、学びを実感してもらっている。重度障がい者を対象とした全国の特別支援学校からの問合せも多く、まずはアーカイブを視聴していただき、その後に講義に参加してもらう流れでスムーズな参加を促進した。

■事業2 当事者企画の実施・成果に関わる普及

オープンキャンパスの実施を通じて会場となった杉並区を中心にダイレクトメールや福祉事業所への封書の案内等で参加の案内を行った。本事業の取り組みが同区内の福祉サービス周辺では知られることになり、一部ボランティアの活動も促すことにつながった。

最終的に歌を作り、コンサートの形でオープンキャンパスを開催することになったことで、より成果の普及が広範囲に向けて行うことが出来た。音楽の配信などを手掛ける講師及び出演者のピアノコーラスグループ、サームの協力もあり、ツイキャスの仕組みを使って事前配信、そしてコンサートの配信により全国で本件の学びに触れる機会を多く提供できた。

■事業3 「メディア論」の実施・成果に関わる普及

本事業はコーディネーターが講師をして「学びの場」をつなぐことが前提となっているが、参加している個人や学びの場は内容については概ね高評価していると同時に、学びをさらに有効なものにするためには、支援者の関りも重要であることを認識している。そのために、各参加者が各地域でこの講義を伝える中では、地域での学びが前提にあり、そこでのコミュニティ確立がオンラインの学びを保証しているとの認識である。

参加の各学校は地域で「学び」の重要性を関係機関や保護者らに説明をしている様子で、実際にキングカレッジやユニバやまなしの広報誌には、本取組が紹介され、地域での成果普及にもつながった。

■事業4 指定管理業者との研究の実施・成果に関わる普及

本事業の成果はガイドラインの素案として出されたが、SPS 本社及び指定管理する4施設との議論の中で抽出されたもので、来年度も継続して研究した上で完成を目指す事にしたため、おおよげなりリリースには至っていないものの、同社が指定管理する全国50施設の関係者が今回の議論に触れ、「障がい者の学びの場づくり」の認識につながった。

9 実施により得られた成果・効果

本事業では、障がい者の生涯学習という、社会にとっては新しい領域であることが社会にとっては大きなインパクトを与えていることに加え、「重度障がい者の学び」「重度障がい者の企画」「重度障がい者による歌作りとコンサート」「オンラインでの学び」「指定管理業者との研究」は新しいトピックとして、参加や情報発信における新規性として示してきた。

この結果のアウトプット効果は大きく、その先のアウトカムに関しても具体的な広がりも見られた。以下、計画の目標値とともに実際の結果を示す。

本事業におけるアウトプット・アウトカム目標と結果

	アウトプット	アウトカム
事業1	【目標】 音楽講義数：30 延べ参加人数：300 講師側（音楽家）の数：20 【結果】 音楽講義数：30 延べ参加人数：約1500 講師側（音楽家）の数：19	【目標】 途中参加者：50 途中参加の団体：5 取組を紹介する外部媒体：2 【結果】 途中参加者：50 途中参加の団体：5 取組を紹介する外部媒体：2
事業2	【目標】 企画委員の数：10	【目標】 途中参加者：10

	<p>会議の時間数：10 講義の数：3×2 時間</p> <p>【結果】 企画委員の数：8（支援者含む） 会議の時間数：5 講義の数：3 回×2 時間</p>	<p>途中参加の団体：3 取組を紹介する外部媒体：2</p> <p>【結果】 途中参加者：300 以上 途中参加の団体：10 以上 取組を紹介する外部媒体：2</p>
事業 3	<p>【目標】 遠隔講義数：30 延べ参加人数：900 スタッフ側の参加人数：150</p> <p>【結果】 遠隔講義数：30 延べ参加人数：1500 スタッフ側の参加人数：300</p>	<p>【目標】 途中参加者：50 途中参加の団体：3 取組を紹介する外部媒体：2</p> <p>【結果】 途中参加者：50 途中参加の団体：5 取組を紹介する外部媒体：0</p>
事業 4	<p>【目標】 参加施設・団体の数：10 延べ参加人数：100</p> <p>【結果】 参加施設・団体の数：5 延べ参加人数：80 程度</p>	<p>【目標】 途中参加者：20 途中参加の団体：5 取組を紹介する外部媒体：2 来年度以降の継続した取組地域：4</p> <p>【結果】 途中参加者：SPS 社内 50 途中参加の団体：なし 取組を紹介する外部媒体：1 来年度以降の継続した取組地域：SPS 社内</p>
上記 1-4 を統合し た発信	<p>【目標】 ケアメディア発信及びメルマガ・ブログでの発信における閲覧数：延べ1 か月 3 万人/年間で 30 万人程度</p> <p>【結果】 ケアメディア発信及びメルマガ・ブログでの発信における閲覧数：延べ1 か月 1 万人/年間で</p>	<p>【目標】 発信による具体的なレスポンス数（学びの実践や各種問い合わせ）：20</p> <p>【結果】 発信による具体的なレスポンス数（学びの実践や各種問い合わせ）：20 程度</p>

	10万人程度	
--	--------	--

本年度事業では「おんがくでつながろう」「メディア論」とともに平均で50名以上の受講者がおり、延べ数で3000名以上の受講者を記録した。この広がりをさらに展開させ、全国どこで学べる環境を整備していきたい。そのためにみんなの大学校は継続してより多くの方に「障がい者の学び」を提供し、社会で普通に障害者が学べる環境を整備していくが、来期からは今回、重度障がい者、軽度の知的障がい者に焦点をあててながらインクルーシブな学びをデザインしたことが多くの方のニーズに応える形になったことを踏まえ、精神障がい、発達障がい等を「中心」に置きながら講義を提供することを考えたい。この考えのもと、以下の点を大枠として重点的に取り組んでいき、ここにアウトカム目標を設定したい。

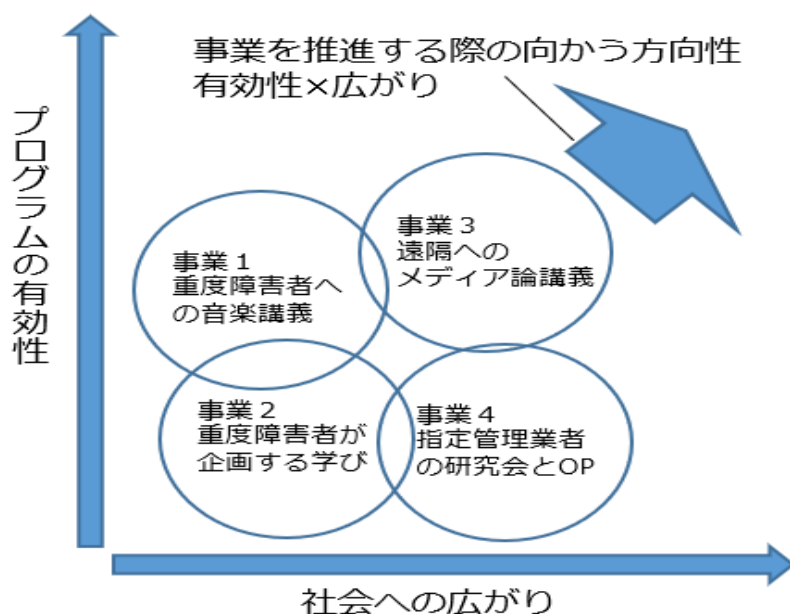
本事業	アウトカム目標
ウェブ講義事業	この数年で確実のウェブでのつながりは広まっており、さらに全国の当事者が結ばれ、各地域の公民館などオフラインでの学びともつながっていく仕組みを作る。同時に高等教育機関と連携し、その意義づけを整理し、目的に合わせたカリキュラムを充実させる →障害特性に応じながらインクルーシブな学びを目指す
重度障がい者向け事業	全国のニーズに対応するための仕組みを作り、各地の動きとも連動しながら全国どこでも受けられるサービスにする基礎をつくる。自治体の支援も視野に置き、ガイドライン作成、カリキュラム提供、支援者育成を行う →音楽分野での「講師」を各地で育成する
指定管理者への展開	民間業者が「インクルーシブな学び」を会得することで全国の社会教育施設がより共生社会の核となる可能性があり、本年度の基礎研究から抽出したガイドラインの素案をもとに研究を進め、来年度も実践と研究の継続として全国の施設に普及させるガイドライン作成を行う。 →ガイドラインを普及させるために様々な指定管理者のネットワークを構築する。

本事業では「講義」「研究」「企画」を通じてそれぞれの取組を検証しながら、受講者や当事者からのアンケートから、企画書にも記載した以下のポイントの的確性は確認できた。本事業で抽出したガイドライン素案はこのポイントにも応じる形になっており、今後の取組においても以下の点を留意し具体的なガイドラインに反映させる必要がある。

- ・つながりの手法
- ・企画実行のプロセス

- ・担い手の育成
- ・福祉サービスでの活用の浸透
- ・指定管理業者の研究の素地

その際の大きな考え方として、「プログラムの有効性」と「社会への広がり」がある。本事業ではこの2つを意識することで、以下の図で示す4事業の位置づけを、それぞれの特性を認識して右上をイメージできるような取組が「誰でも」「どこでも」提供できる学びになるとの考えを確認した。



上記の縦軸である「プログラムの有効性」とは「学びが受講生にとって有益であること」と「学びが地域にとって有益であること」の2つの面があると考えており、この「有益」についてはインクルーシブな学びにおける検討として、今後大学等の研究機関と協働し研究していきたい。

本事業後もみんなの大学校は継続してウェブ講義を行っていき、さらに上記の取組を「みんなの大学校」の基本活動として行い、各地域の取組をカバーし、各地域の取組をつなげる役割も果たしたい。

さらに学習内容などの細部については、本事業での成果をもとにさらに以下の項目で開発していく。

【学習プログラム講義】

＜ウェブ講義＞

本事業により50分の講義がそれぞれ障害特性を意識しながら展開し、講師の留意点、コミュニケーションの仕方や資料の作り方などのガイドラインに向けて以下を確認した。

時間配分 50分授業を基本に、講話は15分以内におさえてのアクティブラーニングを

心掛ける効用を再確認

講義のはじまりでは前回の講義を忘れてしまっていることを考慮し、手厚く復習を行っていき、「わからない」まま進まないように工夫することが重要。講義毎の障害特性への対応の蓄積を記録し、アクティブラーニングを通じてどのような「介入」「指導」の方法が有効かを検証したうえで、「サブティーチャー養成」の開発も急がれるが、支援と学びの両立に対応できる支援者は多くなく、今後はモデルを開発することで普及のきっかけにしたい。

<訪問型学習>

1タームで毎週1回50分の講義を連続的に行うことを考えての学習内容についての検討を経て、これまで整理した内容を発展し、普及型を検討してきたが、コロナ禍の中で訪問が制限されたことで本年度の実行数は少なかった。

【受け手側の反応】

ウェブ型・訪問型のどちらにおいても受講者の学習意欲 レポートやアンケートをもとに「何が学びに必要なか」を検証し「人格形成への有効化」をテーマにしたが、1人の学生についてはそのレポートから、本講義が「生きる」意欲につながったことも確認された。

これは連携協議会でも共有され、講義での名前を呼び合うことでつながりが有効であったと指摘し、今後のケーススタディとして蓄積した。

【コンテンツの可能性】

ウェブ型・招集型ともに、どのような学習コンテンツが有効かを検証しながら、そのラインアップを増やしていくことで多様な学習内容を示すために講師とのディスカッションを行い、以下の項目で検証した。

ウェブ型—学習内容と科目、狙いと評価→現状の講義を基本にアクティブラーニングの工夫をテーマにそって行った。

簡易バージョンで90分以内での学習プロセスと科目、狙いと評価→90分を2回にわけて分かりやすくテーマを分かりやすく提示することの工夫が必要である。

訪問型—50分×12回の学習プロセスと科目、狙いと評価→障害特性に応じて、支援者が「学び」を認識させることが重要である。

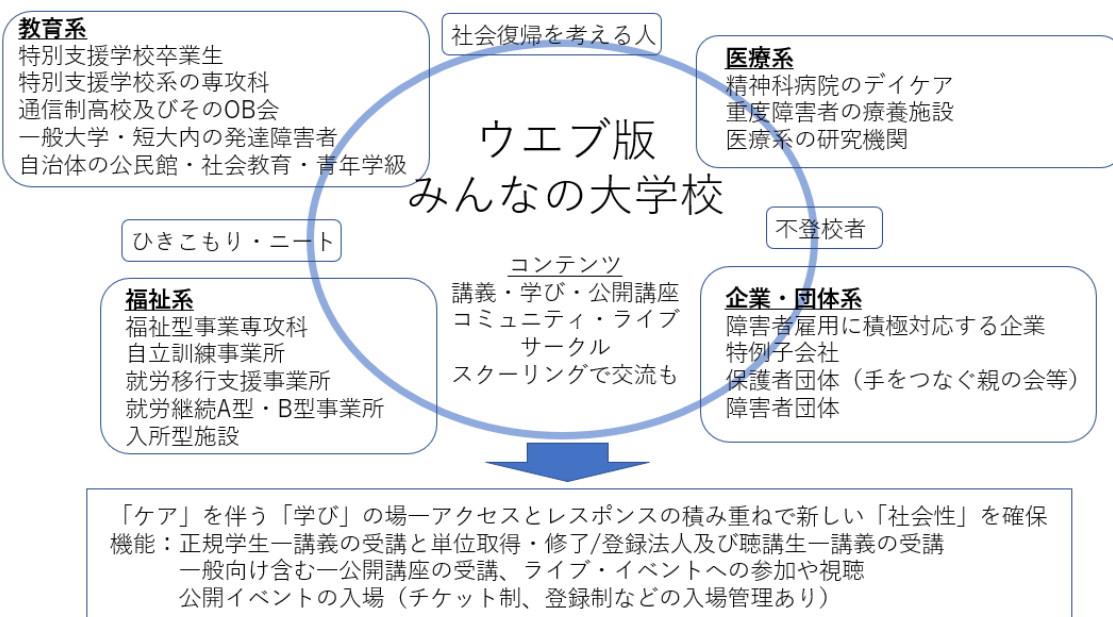
レクレーション学習のプロセス、狙いと評価の整理→レクレーションを遊ぶのではなく、学びとして遊ぶよりも楽しいことを認識できるようなプログラミングとコミュニケーションが重要である。

10 事業の実施により終了後（中長期的）に得た成果／アウトカム目標

本事業で取り組んだことが、みんなの大学校以外でも展開されるべく、得たノウハウは積極的に提供する。特に以下については継続した課題であり、今後も意識しながら提供できる環境を整えていく。

- ・手法から実践
- ・企画の実行
- ・福祉サービス利用時における活用の浸透と理解
- ・指定管理業者への「場づくり」の浸透

そのためにみんなの大学校は社会へ浸透させるコアとして機能していきたい。全体の位置付けは以下である。



■本委託事業実施により得られた成果の活用

みんなの大学校は障がい者をはじめとする支援が必要な方が「学び」によって、自己を高め人生をより豊かにし、社会参加も促せることを見据えて、各地でその実現に向けて取り組んできており、学生の学費で運営する中で社会における学びの価値も創出してきた。本事業も学びの価値を示すことで、社会全体が学び合う環境になることを目指す中で、本事業で得た成果は確実に今後の基礎をさらに固めたと考えている。

本事業では社会のトレンドと考えた「ウェブ」「重度」「本人企画」「遠隔」「企業」をキーワードにしたことで、多くの可能性も広がったと考えている。来年度以降に向けては以下を想定・計画している。

事業1

「音楽でつながろう」の有効性を確認したことで、より広く重度障がい者向けの学びを提供するために、本事業を継続させ、さらに全国規模で参加人数・参加施設を増やしていく。新たな音楽家の参加者も増やすことで経験を経てノウハウを会得した講師・演者のネットワークを広げる。

事業2

重度障がい者が企画したオープンキャンパスから歌の制作とコンサートに発展させ

社会にメッセージに発出したプロセスを全国的に普及させるため、全国数か所で同様の企画を実践する。そのための予算措置として文化庁「障害者等による文化芸術活動推進事業」での実施を計画（公募中）。

事業3

本事業の「メディア論」の発展に向けて継続して講義を行うと同時に、精神障がい者向けの「コミュニケーション」「マインドフルネス」、軽度知的障がい者向けの「けいざいとくらし」の講義をオープンソースとしてオンラインでの学びの提供を拡充させ、各種障害特性に応じた学びや引きこもりや不登校などの社会課題にも対応できるインクルーシブな学びを確立していく。

事業4

本事業で策定したガイドラインの素案をもとに、SPS社との研究と現場でのディスカッションをさらに進め、実際のイベント（※事業2の発展型）を実践しながらガイドラインを完成させ、全国の指定管理業者の普及を目指し、民間の施設管理・運営の視点から「障がい者の学びの場づくり」を普及させる。

おわりに

2022年度文部科学省「地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進」における「重度障害者の学習支援の展開と地域と指定管理業者による障害者の生涯学習の場づくりの研究事業」は、障害者権利条約を批准したことで障がい者の権利としての生涯学習との位置付けから始まりましたが、この事業を5年間行ったことで感じるのは、事業に関わった方々が幸せな気持ちになれる空気が生まれていることです。

インクルーシブの場づくりが当事者にとっても当事者ではなくても、関わることで生まれる幸福感は「学び」という目的の中で大きな効果を生むことも集合型やオンラインでの学びを重ねることで実証されてきました。本年度は全体で延べ3000人以上が直接、この講義等のプログラムに関わり、コンサートの配信を加えると、参加者の数は飛躍的に増大し、ますますこの分野の認知が高まってくるものと思われまます。

障害特性に応じた学びはいつまでたっても答えはありませんが、その探求こそが、共に生きること、そのものかもしれません。

本年度事業に携わっていただきました当事者、スタッフ、関係者のみなさま、文科省のみなさま、心より御礼申し上げます。道半ばの障がい者の生涯学習分野に今後も関わっていただければ幸甚の至りでございます。

コーディネーター 引地達也

（了）

2023年3月7日

2022 年度文部科学省「地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進」における
「重度障害者の学習支援の展開と地域と指定管理者による障害者の生涯学習の場づ
くりの研究事業」成果報告書

編集：一般社団法人みんなの大学校

一般社団法人みんなの大学校

代表理事 引地達也

185-0011 東京都国分寺市本多 2-1-4



みんなの大学校

Minnano College of Liberalarts

-学び、で君が花開く-

<https://minnano-daigaku.net/>